

2006 人権啓発・教育 コーディネーター 養成講座

を

7月から12月まで開催

しました。

「2006人権啓発・教育コーディネーター養成講座」報告集

奈良県・NPO「ほっとねっと」

「2006人権啓発・教育コーディネーター養成講座」は県とNPOとの協働事業です

— 「ボランティア・NPO活動推進基金」活用事業 —

目次

開催要項・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

- 開催主旨
- 目的
- 対象および定員
- 開催日程および内容
- 参加者数

ワークショップ報告・・・・・・・・・・・・

- 第 1 日目・・・・・・「人権のコミュニティ・ワーカーになろう」・・・・ 5
- 第 2 日目・・・・・・「若者にもっと元気になってもらいたい!」・・・・ 8
- 第 3 日目・・・・・・「答えはすべて現場にある」・・・・・・ 21
- 第 4 日目・・・・・・「地域がわかる 地域がかわる!」・・・・・・ 26
- 第 5 日目・・・・・・「地域就労支援事業とコーディネーターの役割」・・ 29

- 第 6 日目・・・・・・「のびやかに自分になる」・・・・・・ 31
- 第 7 日目・・・・・・「ワークショップで感じる・考える」・・・・・・ 35
- 第 8 日目・・・・・・「参加型学習の手法と効用」・・・・・・ 40
- 第 9 日目・・・・・・「自分さがしとカウンセリング」・・・・・・ 45
- 第10日目・・・・・・「新しい人権論」・・・・・・ 49

- 第11・12日目・・・・・・「ぶらっと・無駄話の効用」・・・・・・ 62

参加者の声・・・・・・・・・・・・・・・・ 69

開催要項

開催主旨

多様化する現代社会において人と人とのつながりは希薄化にむかい、いま地域コミュニティが崩壊してきているように思います。この影響は、子どもたちの教育や育ち、高齢者の暮らしにも大きく影響するとともに、個人が抱えるストレス、不安感の増大から生まれる人権軽視など、犯罪にも大きく結びつくような意識にも影響があると思います。

これからの社会実現のためには“人と人”とのつながりが重要なキーワードです。

人権啓発をはじめ、コミュニティの再生やさまざまな場所での人づくり、まちづくりなど、人と人とを結びつける、コーディネートする役割を担うのがコーディネーター。

今回の講座は、コーディネーターのスキルアップのみならず、参加者同士のネットワーク作りを目指します。「こんなことできないかな?」「まちをこうしたい。」といろいろな思いとともに、日常的な啓発活動の中での悩みなど語り合いながら、みんなで共に考え、共に学ぶ場になればと考えます。

人権が大切にされた人権文化の創造をめざし、県とNPOが協働し「2006人権啓発・教育コーディネーター養成講座」を開催します。

目的

- ◆ 人権感覚の豊かなまちづくり、人づくりのためのコーディネーターの存在は、企業はもとより、行政機関や教育機関、地域での自治運営等、さまざまな場所での人づくり、まちづくりに役立つ事と思います。

人権が大切にされた人権文化創造のため、本講座では以下について学ぶ機会となるよう取り組みます。

- 人権啓発・人権教育コーディネーターの必要性・役割について学ぶ。
- 多様な人権課題解決に向けた企画づくりのノウハウを学ぶ。
- 体験・参加型人権学習の必要性とファシリテーターの役割を学ぶ。
- 実践に向けたスキルアップとともにネットワークづくり。

対象および定員

● 対象

□ 奈良県に在住の方、または、職場をお持ちの方。特に以下の方々。

- ・ 県市町村人権啓発・教育担当者
- ・ 社会教育担当者
- ・ 隣保館等コミュニティセンター職員
- ・ 学校教育関係者および保育関係者
- ・ 企業内人権啓発・教育担当者
- ・ 自治会等地域コミュニティ人権啓発担当者
- ・ 人権啓発・教育をすすめようとする方。また人権相談など、実際に活動をおこなっている方。
- ・ コーディネーターおよびファシリテーターに関心があり、やりたいと思っている方。さらにステップアップしたい方。

● 定員

各回 40人(先着順)

開催日程および内容など

● 前期：『人権啓発・教育コーディネーター養成講座』【PM1:30～PM4:30】

日にち	テーマ（内容）	講師	場所
7/13	「人権のコミュニティ・ワーカ になろう」	森 良さん エコ・コミュニケーションセンター	奈良県 社会福祉総合センター
7/20	「若者にもっと 元気になってもらいたい！」	森田 俊彦さん A'ワーク創造館 佐藤 透さん 自然流自立塾 NOLA	奈良県 社会福祉総合センター
7/27	「答えはすべて現場にある」	ちよん せいこさん 共生ユニットAPUROまつばら	奈良県 社会福祉総合センター
8/17	「地域がわかる 地域がかわる！」	池住 義憲さん 国際民衆保健協議会	奈良県 社会福祉総合センター
8/24	「地域就労支援事業と コーディネーターの役割」	富田 一幸さん 大阪市地域就労支援センター	きれんセンター (橿原市)

● 後期：『参加型人権学習ファシリテーター養成講座』【AM10:00～PM4:30】

日にち	テーマ（内容）	講師	場所
10/14	「のびやかに自分になる」	伊勢 達郎さん 自然スクール TOEC	かしはら万葉ホール
10/21	「ワークショップで 感じる・考える」	栗本 敦子さん Facilitator's LABO	かしはら万葉ホール
11/11	「参加型学習の手法と効用」	岩山 仁さん 株式会社リクレア	かしはら万葉ホール
11/25	「自分さがしとカウンセリング」	水野 阿修羅さん メンズサポートルーム大阪	かしはら万葉ホール
12/9	「新しい人権論」	伊田 広行さん 立命館大学非常勤講師	かしはら万葉ホール

● 『養成講座宿泊研修』

日にち	テーマ（内容）	講師	場所
12/22 12/23	「ぶらっと・無駄話の効用」	宝田 裕士さん 奈良市立東市小学校 幸田 英二さん 大阪市住吉人権協会	奈良市 佐保人権文化センター

参加者数

日程	行政	NPO	一般（企業・団体含む）	計
7/13（木）	5	4	6	15
7/20（木）	4	4	5	13
7/27（木）	7	4	4	15
8/17（木）	2	4	6	12
8/24（木）	4	5	6	15
10/1（土）	1	4	11	16
10/2（土）	2	4	7	13
11/11（土）	1	3	1	5
11/25（土）	1	3	2	6
12/9（土）	2	3	2	7
12/22（金）	3	4	4	11
12/23（土）	2	4	5	11
				139

前期：『人権啓発・教育コーディネーター養成講座』第1日目

「人権のコミュニティ・ワーカーになろう」

講師：森 良 さん

第1日目はコミュニティ・エンパワメントをテーマに、地域づくりや人づくりに取り組んでいるNPO法人「エコ・コミュニケーションセンター」の森良さんに講師をお願いし、「人権のコミュニティ・ワーカーになろう」と題し、ワークショップを交えながらコーディネーターの必要性や役割について、大枠での概論を教えてくださいました。

はじめに、今日はどんな方が講座に参加しているのか。普段はどんな活動を行なっているのか。また、どんな動機で参加したかなど、自己紹介を含め参加者の情報集めからスタートしました。

参加された方のなかからは「地区別懇談会を行なっているがマンネリ化にある。参加型学習を取り入れ懇談会を活性化させたい」「いろんな研修等を企画しているが、若者が集まってくれない。どのようなコーディネーターが必要か悩んでいる」などの意見がだされました。

MEMO

- ◆ コーディネートすることについて
コーディネートには対等にするという意味がある。コーディネーターは人を対等にして出合わせる。どんな仕事であっても、それぞれの仕事の中に“コーディネートする”ということが必ず入っている。
- ◆ 参加型学習について
知識は経験を通してしか自分のものにならない。参加することは経験すること。経験を通して自分のものにするのが参加型。やっていることを通して自分のものにする。
- ◆ それぞれのスタンスからコーディネートはできる。

その後、アイスブレイキングに。アイスブレイキングは、隣の人の第一印象を順番に言い合っていくというとても簡単なものですが、このアイスブレイキングはく初対面の人にあまり悪いことを言わない。隣の人の良いところを言おうとする。その際本当はどんな人かな？と関心を持つことが出来るというものでした。

その後、「人権のコミュニティ・ワーカーになろう」というレクチャーに移りました。

MEMO

- ◆ 講座を企画した後に参加者がどうなるかまでを考えて企画を立てているか。
- ◆ 参加者がそこから企画者にまわっていくことが社会教育のポイントになる。
————— 受身から主体へ
- ◆ 企画・・・(自分の興味、住民のニーズ、お金の問題のすり合わせ)
- ◆ ポイントは1) 職場、地域が参加しやすいか。2) 企画する時のニーズをどのようにキャッチするのか。3) ターゲットにどのように働きかけるのか。4) 仕掛ける側のミッションを強くする。
- ◆ 自分たちのやり方で自分たちの手法でやることが大切。

【 当日のレジュメより一部抜粋 】

だれがどうやる？——コミュニティワーカーの出番だ！

子どもや市民社会の学びや社会参加を推進するとともに、学びを参加に高め、市民が主役となった社会の変革をおし進めるコミュニティワーカーを育てる。

＜コミュニティワーカーの仕事＞

- ①学びと参加のファシリテーター
- ②新しい仕組みやプロジェクトのプロデューサー
- ③パートナーシップのコーディネーター

ファシリテーター：一人ひとりの持っている経験や知識、気づきを引出し、市民参加のプロセスを促進する。社会のお産婆さん。

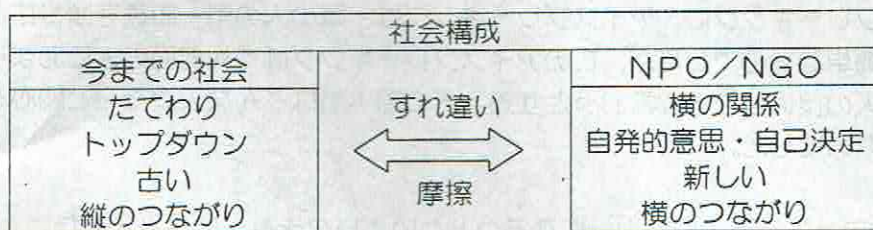
コーディネーター：地域社会の中の異なる立場の人を対等にしてつなぐ役割。お互いの特性を理解し、出会わせ、選択をし、社会のビジョンに沿って調整していく。社会の仲人さん。

プロデューサー：3つのP（プラン、プログラム、プロジェクト）を住民が企画・制作・演出するものを手助けする役割。社会のデザイナー。

コーディネーターのしごと

- ①地域の実態を捉え、人や情報をつなぎ、公・共・私3つのセクターの関係を対等に位置づける
- ②学びと社会参加をつなぐ
個のエンパワメントを社会的共同学習やソフトのまちづくりに高め、つないでいく
- ③新たな社会的価値を生み出す
社会における「すれ違い」と「摩擦」を常識化し、それを埋め、解きほぐしていくために、新しい手段や方法を提示していく。

参加民主主義という思想の実践としての参加型学習ワークショップ



④協働事業をコーディネートし市民的公共を実現する

- ・プログラムのブラッシュアップや担当課とのラウンドテーブルの設定
- ・コミュニティファンドと公開コンペ事業評価

★大切にすべきこととしてはいけないこと

- 地域、社会に対して見通しを持つこと。その上で個人（個々の団体）の活動を見直すこと
- 共有すること
- × よけいなことはしない。（行動するのは当事者。当事者ができること、すべきことはやってはならない）

MEMO

- ◆ 日本のコミュニティがやってきた良いもの・・・“いりあい”
市場が幅をきかすと資源はお金になる——資源をどのように取り戻すのか。お金に換算できないものがある。
- ◆ 何でも官から民ではいけない・・・民の中には自分のことしか考えない人も多い。
- ◆ 官から公共へ・民から公共へ・・・公共というのがキーワードになる。
- ◆ 識字教育はただ単に字を覚えることではなく、それにより社会関係や人間関係を読み解くことにつながっている。
参加型学習は楽しいからではなく、新しい価値の意識化の意味を持っている。
- ◆ 人権相談はただつなぎ合わせるだけでは駄目。そのフォローが必要。
テーブルをコーディネートしてあげる必要がある。

- ◆ 言ったことは必ず書く。紙に残すことが大切。次にやった時に出してきて積み上げる。

レクチャー終了後、休憩を挟んで参加者がグループにわかれ「課題解決のワークショップ」に移りました。参加者それぞれが日頃取り組んでいる活動の中での課題を出し合い、議論を深めました。

前期：『人権啓発・教育コーディネーター養成講座』第2日目

「若者にもっと元気になってもらいたい！」

講師：森田俊彦さん/佐藤透さん

講座の第2日目は、コーディネーターの役割が具体的に伝わればとの思いから「若者にもっと元気になってもらいたい！」をテーマに、大阪にある“A’^(えーだっしゅ)ワーク創造館”で若年無業者への就労支援などをおこなっている森田俊彦さんと、吉野町で不登校・引きこもり等、自立不全青少年の支援を寄宿型でおこなっている“自然流自立塾 NOLA”の佐藤透さんに講演をいただきました。

お二人とも自身がコーディネーターという認識はもっておられないだろうと思うのですが、コーディネーターの役割、大切さを十分に感じられる講座となりました。(コーディネーターと呼ぶのか、呼ばないのかなどはどちらでもよいことですが・・・)

以下、講演記録を示します。(一部省略あり)

【森田俊彦さん(A’ワーク創造館)】

A’ワーク創造館の森田です。

まず、A’ワーク創造館(以下「A’」)の施設は、雇用・能力開発機構立「大阪地域職業訓練センター」です。運営を大阪府、大阪市、大阪商工会議所などをはじめとした経済団体によって設立された(財)大阪生涯職業教育振興協会がおこなっております。

設立は1991年1月です。その年の7月には事業を開始しています。設立経緯は、隣接する府立訓練校が今は総合訓練校として大きくなっていますが、26年前は同和对策専門の訓練校で、二科目だけの訓練校でしたが、同和地域の方、府民の利用も少ないということで、総合訓練校にすると同時に、同和地区住民の方をはじめとした就職困難な方の職業教育訓練ができないかという発想、要求がでてきたわけです。しかし、職業訓練校というのは法律でかなり縛られています。訓練科目や期間が法律で決まっていて、柔軟に対応できません。

パソコンの科目があるとするとプログラミングからはじめる授業です。ところが実際に仕事で使う場合、C言語を使ってプログラムして仕事をする人は通常の職場では、ほとんどいないと言っていると思います。エクセルやワードを使って、たまにパワーポイントを使う。それでほしい仕事ができるということになるんじゃないでしょうか。メールもできたらこしたことはない。ところが、訓練校では訓練が重装備なんです。そうではなくて、本当に実用的で就職困難な人への教育訓練ができないかという発想でつくられたのがA’ワーク創造館ということになります。

どんなことをやっているかといいますと、主に、パソコンやビジネス系の講座、イベント・研究開発、相談事業です。最近ではコミュニティービジネスの中間支援事業等です。研究開発では、「夢耕場」という冊子を年1回発行しています。A’祭といまして年1回5月に地域住民の方、受講生、講師の先生方と交流をするためにイベントをしています。

2005年度には、「無業者の実状と支援を考えるフォーラム」という、いま若年者支援の最先端の現場で頑張っておられる方々に来ていただいてフォーラムもやりました。NOLAの佐藤さんにもご尽力いただきました。申込の段階で800人超えてしまい、申込を断らなくてはいけなくなったりしましたが、結果750名の参加がありました。

当館の年間事業では講座がかなりウエイトを占めており、半期ごとにだいたい80講座強、100コースぐらい講座を実施しています。ほぼ、75%ぐらいがパソコン系の講座です。ワード、エクセルから仕事に使っていただけるようになるまでの講座レベルの設定をしています。パソコンは、習わなくても個人で学ぶことができると思いますが、パソコンが出だした最初の頃のマニュアルやメーカーのくれるマニュアルでは、極端な場合、マニュアルに書いてある日本語が理解できないそんな状態

でした。A' ではそのころからこれではいけないとリテラシーの向上という観点から独自の教材を開発してきました。あるいは、民間ではほとんど実施してないと講座だと思いますが、パソコンの立ち上げ方から保存、文字入力の仕方から始める入門講座があります。そういったリテラシーの観点からの講座開発が当館の強みで、民間では採算がとれないのでやっていないと思います。また、講座全体の組み立てとして、仕事に使っていただけるように、本当に仕事に必要なところだけ、パートパートに分けて、受講できるように、その人の必要な講座だけを選択していただけるというような講座の組み立てをしています。

その中で、日常生活や職業の場面で、読み書き計算が苦手でごまっておられる方等を対象とした「これから学級シリーズ」という講座があります。これは A' がおこなう機能的識字教室です。5コースがあり「体験！これから学級」、「読み方・書き方」「計算」「はじめてのA、B、C」はじめて日本にきた外国人のための日本語会話教室です。これらは大阪府・大阪市から補助金をいただいてやっている事業です。

同和地区では、識字教室など取り組まれていると思うのですが、文字を取り返すということとアイデンティティーを獲得するという非常に意義がある取組だと思えます。当館も非常に大事だと考えているところですが、また違った観点で、機能的な、日常、仕事で使う、そういったところから識字をやっていこうと言うことを「これから学級シリーズ」では目指しています。私たちは、これらの講座を成人実用基礎教育と考えています。

どんなことをするかといえば、簡単なところでは役所に行って、書類の書き方がわからないから書けないからどうやって書いたらいいとか、冠婚葬祭のときの香典を出すのにはどう書いたらいいかですね。そういうところからやる。あいさつはどのようにしていったらいいか。敬語はどのように使うか。実用的な事柄を学んでいただきます。

若者について

A' は設立当初から若年者の支援を行なっていて、最初は、高校中退者のための電話相談事業を実施しています。1991年当時、話題にはなりつつありましたが、高校中退者の問題を取り上げたところはありませんでした。それを取り上げたところすごい反響があり、電話が鳴りっぱなしという状態だったそうです。

私が1999年にA' に就職した頃は、「おかわりクラブ」という若年者を対象とした講座を実施していました。その当時はモラトリアムとか、自分探しとか言われていまして、自分の行き先をなかなか決めない若者というのが注目されていました。自分はいったい何がむいているんだろう？とか本当に自分がしたい仕事は何なんだろう？とか。そういう若者を対象とした進路支援講座をやっていたのです。その時に私は、講座のなかで、相談の場面があって、受講している若者に話をして驚きました。それは、「なぜ働かなければいけないのか？」と言う疑問を持っている若者がいると知ったことです。私たちの世代はそうだと思いますが、学校を出たら働く、家を出る等、それが社会的な規範であって意識せずそういう風に振る舞っていたと思います。ところが相談のなかで、「なぜ働かなければいけないのか？」と言われたときに正直びっくりしました。なぜなんだろうかと疑問を持ちました。それが、私が若年者問題にかかわるきっかけです。同じ時期、元々は中高年齢者を対象としていた「体験！これから学級」に若い人がくるようになり、具体的に若年者の課題に取り組むようになりました。

さて、若者の状態をどう見るか資料をつけておりますが、これは淡路ブラッツの田中さん達がまとめられたものなんですが、使わせていただいて説明いたします。大きくは「純粹引きこもり」と「引きこもり」と「ニート」「フリーター」というように分類するとして、説明していきます。「純粹引きこもり」というのは、外出も家族との接触も仕事もない人たちです。「引きこもり」という人たちは、外出をしたり、例えばコンビニに行ったり、あるいは図書館に行ったり、好きなところへいけるグル

ープで、家族とも話しをします。「純粹ひきこもり」の場合は家族とも接触しない。閉じこもってしまっ
て出てこない状態ですね。家族が寝静まったところに2階の部屋から降りてきて一人だけでご飯を食べ
たりとか。狭義の「ニート」の場合、外出はできる、家族とも話しをする、知人もいるしかし仕事は
していない状態です。「フリーター」の場合は、これは全部 OK です。「ニート」の狭義の場合こう言
うのですが、普通いま言われる広義の「ニート」の場合、「純粹引きこもり」から狭義の「ニート」を
いれて「ニート」と言われています。

私が若年者問題に関わりだした99年当時は、当館の“体験！これから学級”に若い人たちが来だ
した頃で、若い人たちがなぜ来るんだろうと話していたら、「不登校」とか、引きこもっていたりして
いた人達だったのです。そのときたまたま斉藤環さんの「社会的引きこもり」という本を見つけてこ
れだと気づきました。

支援をするとき注意しないといけないと思うのは、どのグループか見極めていないと支援を誤るの
ではないかということです。例えば、「純粹引きこもり」の場合、とても仕事なんて出来ないのに、A'
に連れてきて、仕事をやらせようと思っても絶対無理です。もちろん出てきませんから無理です。と
ころが「引きこもり」となって、外出は出来る、A'にも来れるとなっても、仕事は無理です。たいて
いの場合長い間引きこもって社会との関係が断絶していますから、このグループの若者に何を支援す
べきかという、仕事の前に社会参加を促すようなことをするのが必要です。社会に参加するための
前段の訓練をすることだと考えています。当館の若年者支援事業は社会参加を促すことと、求職活動
をはじめると促すなどの就労支援の2つをやっています。

若者が厳しい経済的背景を抱えて無業者になってきている実態があります。ニート状態の若者に対
して、一部では賛否な若者という論調があり、確かにほんの1割にも満たないグループで、働かなく
ても食べていけるというグループもいると言われていますが、ほとんどはそうではない若年者です。
次の例でも申し上げますが、ニートの若者たちは、様々なタイプがあります。3日前に若者自立塾の
レポートをテレビでやっておりました。ある自立塾の場合ですが、そこに来ている若者の特徴は資
格があったり、学力は高いようでした。運営母体というか、代表者が専門学校を経営しているので、
そこで就職できない若者たちを自立塾に入れているんです。自信はない、引っ込み思案、そういう若
者なのですが非常に優秀なんです。専門学校で資格もたくさんとっているのに、結局かなりの率で就
職をしていっているんです。そういうニートのグループもあります。

大阪の場合、公的な機関で引きこもりの若者の相談をしているのは、保健所と子ども家庭センター
です。子ども家庭センターの相談員の方に聞くと、子ども家庭センターに来るほぼ半数の若者が発達
障害者ではないかと予測されています。大学は出ていますが、ところが就職しても仕事が続かなか
ったり、仕事に就けなかったり、うまく仕事がこなせない、仕事でコミュニケーションがうまくとれな
かったりします。これは判定が難しいので、その分野の専門家のサポート体制がいると思う。そう
いう状態から言いますと若者のニート状態に関わって、非求職型、非希望型という分類というのがある
わけですが、さらに違った形態で若者の状態があるということを理解していただきたいと思います。

A'の場合、若者に段階を踏んで仕事に就いていただく、ということをメインに考えてやることで
るので、仕事をしたくないという人、これは受け付けていないんです。突き放すのではなくて、若者の
状態に応じて「どこへ行かれたらいいですよ」とその若者にあった行き先は当然紹介をしますが、し
かし職業ということを中心に考える施設なので、A'に来られる若者は就職したい、そういう人たち
を見ていただけたらいいと思います。

まず先程の「体験！これから学級」に来た若者たちなのですが、特徴としてあげられるのは低学力
で不登校ということがあります。私が関わった例で言いますと、1人はスーパーのレジ係でしたが、
「私は消費税の意味がわからない」自分は納得して仕事をしたいので、消費税の意味を学びたいと言

って受講されました。22、23歳の若い女性です。あるいは、いったん仕事に就いたが、仕事上で悩んで、つまり引きこもりになってしまったとか、そういうグループの若い人達があります。彼らに共通するのは、何とかしないといけないと悩んでいたり、親になぜ働かないのかなどと責められているから自省的になっています。自信のなさというのを非常に強くもっています。そういう若者たちが来ました。

次に、「大阪の若者応援団によるニートのためのジョブトレーニング」の若者の特徴です。この事業は大阪府のニートサポート事業に応募して選定されたものです。事業は二つあり、“リサイクルショップねこまる（店舗運営コース）”と“就労体験事業（就労体験コース）”です。

2つのコースを説明しますと、“就労体験コース”というのは2ヶ月間、民間企業で就労体験をしてもらうというコースです。これは喫茶店等の飲食店の炊事、企業でパソコンの操作補助とか、20社以上の企業で就労体験をします。店舗運営コースというのは、名称は“ねこまる”といいまして、リサイクルショップの運営を通じて就労体験、社会参加をしてもらおうというものです。大阪市平野区の町屋を借りてリサイクルショップを5ヶ月間運営しました。

ジョブトレーニング事業に来た若者はどういう若者かといいますと、精神的な疾患を抱えている若者、発達障害系の若者、引きこもりから脱出しようとする若者達でした。

この事業の定員は20人でしたが、就労体験コースは15人で、店舗運営コースは5人です。店舗運営コースの場合を見てみると、仕事の段取りがスムーズに出来ない、気がつかない、場の雰囲気を読めないという状態でした。例えば茶碗が3つあったとすれば、「コレしまっ」といえば、私が示した1つしか片付けない。3つ片付けないのです。清掃会社へ研修に出た若者の場合は、学力はあると考えられるのですが、決まった清掃の方法とか、手順とかが覚えられないという状態でした。

5ヶ月後の店舗運営コースの終了時には、今言った状態から店舗運営の経験を積んだこと、地域のおとなの支援により効果があったと考えていますが、良い結果が出てこのコースを修了したと思います。このコースのスタート時には、受講生同士、お互い話しもしないし、笑顔も無いし、声かけをしても反応が無いような状態でした。店舗運営コースの場合は、平野区の商店街の人や地域のおとなに大変お世話になっています。社会参加ということも大きな目的の一つですので、地域住民との交流を通じて社会参加を図るといのが一つの大きなポイントなんです。平野区の皆さんに支援していただいた内容といえば、例えば店の管理だとかを平野商店街のリサイクルショップのオーナーに教えてもらったり、レジの管理も商店街の人に教えてもらいました。あるいは日々の売り場での接客の要領とかは近所のおばさんです。若い人達を何とかせなあかんというおばさん達が週3回の店舗の営業日に毎回、午前と午後交替で来てくれました。そういうサポートをしていただいたことが、大事な点だと思います。地域社会との交流、若者とおとなとの交流と言うことが重要だと考えていました。また、本人達自らが店舗の運営や販売などの計画して決めて実行していく。この二つを重視したことが良かったと思います。

店舗運営コースの終了時の様子は、仕事の段取りを自分たちで失敗しながらもやり、仕事の経験をする、とうことと地域住民の方との交流によって社会参加をする、最後は、「いらっしゃいませ」と言えるようになり、来客があれば声かけもできるし、笑顔も出てきます。若者達は店舗運営に関わった当初は、どうすればいいのかわかっていたと思いますが、自信を無くしていますから、自分は駄目だと、ただ何とかなければならないが、どうしようもないと言う状態に陥っていたと思います。地域住民、おとなにちょっと背中を押していただいて、お節介を焼いていただいて、自分たちと一緒に店舗運営をしたことによって自信がついてきたと思います。それが非常に大事。社会参加をする、あるいは店舗運営という訓練で仕事というのは、こうやってやらなあかんとうよくわかったのではないのでしょうか。

残念ながら5人とも就職は決められませんでした。1人は、最初ボランティアからはじめて、自信

がついてくれば採用しますよという事業所を紹介してもらったんですが、1日行って辞めてしまいました。引きこもりの典型的なタイプだと思うのですが、思いこんでしまう、考えてしまう。「あー自分はこのが出来ない」と思ってつめて辞めてしまいました。

もう一人は清掃会社に仮採用になりましたが、清掃というのはこの部屋ならこの部屋を一人でもたせて清掃するわけですが、彼は基本作業のモップをセオリー通りに押せないなど、うまくいきませんでした。

後の3人は求職をはじめました。ニートの中の非求職型ですから、次の段階からいけば求職活動をするということになると思いますが、自分で仕事を探しだす。これが目標になります。皆さんも、それぞれの若者たちのタイプを見つけれたらいきなり次の段階を飛び越えるのではなく、一つ一つの次の段階へステップアップするように支援することだと思います。ニート状態から、失業者にカウントされるグループにまず入れるということですね。そういう支援が必要だと思います。

次に「仕事探しはじめ」の若者達です。これも様々なタイプがあると思いますが、高校を卒業するときに就職活動をしなが、決まらずに終わってしまったグループがいます。あるいは就職したけれども辞めてしまった。残念ながら高校というのは学校を卒業すると後は面倒をみてくれません。そのグループがどこに行っているかといえば、どこも行っていない。「ひょっとしたら彼らは仕事の探し方を知らないんじゃないか」と考えました。じゃあ一回、仕事の探し方、公的な機関の利用の仕方を学んでもらって自分で仕事を探してもらおうというのがこの講座です。

大阪府内の公共の仕事を探せるようなところ、ハローワーク、関西就職サポートセンター、あるいは職業訓練校、ジョブカフェ。そういうところへA'の職員と私どもに協力を頂いている高校の先生が一緒について廻って、自分で仕事を探してもらおう。こういうグループは結構いると思います。これで受講生の半分就職しました。そういうグループもあります。

若年者支援の方法

まず既存施策の活用です。私のところもやっているやり方なのですが、まず公的施策を導入することです。「就職基礎能力速成講座」という事業がありますが、これは国の事業で、国が県にまかせて、県が民間業者に委託している事業です。こういう施策が他にもあります。こういう施策を導入することです。

若年者の就労支援の難しさという、これは必要な情報を必要な人にどう届けるか、若者たちをどう集めるかということが非常に難しい。それで私どもがどういうアウトリーチのやり方をやっているかという、一番最に取り組んだのは、この「社会的引きこもり支援ガイドマップ」を作ったということになるかと思っています。大阪の公共機関と近畿地区の民間団体21団体を紹介し、どういった支援を受けられるかという冊子を作りました。反響がありまして、3,000部近く出ました。改訂版も出しました。これを作ったときに一緒に取り組んでいただいた淡路プラッツをはじめとして民間団体にご協力をいただいてネットワークを作ろうということになりました。そして、シンポジウム開催してガイドマップに掲載させていただいた団体の説明会のブースを設けた。そこで私達は公共と民間が互いに連絡をとりあって、緩やかなネットワークを作ろうと考えました。社会参加や生活訓練をする団体というのがまずあって、さらに教育訓練や就労訓練をする団体があって、居場所を提供する団体がある、就労というのはかなりの段階を踏んでこないとうまくいかないと思います。お互いに持ち分を生かして、次のステップに対応する団体へ若者を誘導するという関係が大事だと思います。

社会参加

これは段階がありまして、どの段階かを見極めて、私のところは社会参加、社会経験を積ませると

がついてくれば採用しますよという事業所を紹介してもらったんですが、1日行って辞めてしまいました。引きこもりの典型的なタイプだと思うのですが、思いこんでしまう、考えてしまう。「あー自分はこれが出来ない」と思いつめて辞めてしまいました。

もう一人は清掃会社に仮採用になりましたが、清掃というのはこの部屋ならこの部屋を一人でもたせて清掃するわけですが、彼は基本作業のモップをセオリー通りに押せないなど、うまくいきませんでした。

後の3人は求職をはじめました。ニートの中の非求職型ですから、次の段階からいけば求職活動をするということになると思いますが、自分で仕事を探します。これが目標になります。皆さんも、それぞれの若者たちのタイプを見つけれたらいきなり次の段階を飛び越えるのではなく、一つ一つの次の段階へステップアップするように支援することだと思います。ニート状態から、失業者にカウントされるグループにまず入れるということですね。そういう支援が必要だと思います。

次に「仕事探しはじめ」の若者達です。これも様々なタイプがあると思いますが、高校を卒業するときに就職活動をしながらか、決まらずに終わってしまったグループがいます。あるいは就職したけれども辞めてしまった。残念ながら高校というのは学校を卒業すると後は面倒をみてくれません。そのグループがどこに行っているかといえば、どこも行っていない。「ひょっとしたら彼らは仕事の探し方を知らないんじゃないか」と考えました。じゃあ一回、仕事の探し方、公的な機関の利用の仕方を学んでもらって自分で仕事を探してもらおうというのがこの講座です。

大阪府内の公共の仕事を探せるようなところ、ハローワーク、関西就職サポートセンター、あるいは職業訓練校、ジョブカフェ。そういうところへA'の職員と私どもに協力を頂いている高校の先生と一緒にいて廻って、自分で仕事を探してもらおう。こういうグループは結構いると思います。これで受講生の半分就職しました。そういうグループもあります。

若年者支援の方法

まず既存施策の活用です。私のところもやっているやり方なのですが、まず公的施策を導入することです。「就職基礎能力速成講座」という事業がありますが、これは国の事業で、国が県にまかせて、県が民間業者に委託している事業です。こういう施策が他にもあります。こういう施策を導入することです。

若年者の就労支援の難しさという、これは必要な情報を必要な人にどう届けるか、若者たちをどう集めるかということが非常に難しい。それで私どもがどういうアウトリーチのやり方をやっているかという、一番最近に取り組んだのは、この「社会的引きこもり支援ガイドマップ」を作ったということになるかと思います。大阪の公共機関と近畿地区の民間団体21団体を紹介し、どういった支援が受けられるかという冊子を作りました。反響がありまして、3,000部近く出ました。改訂版も出しました。これを作ったときに一緒に取り組んでいただいた淡路プラッツをはじめとして民間団体にご協力をいただいてネットワークを作ろうと言うことになりました。そして、シンポジウム開催してガイドマップに掲載させていただいた団体の説明会のブースを設けた。そこで私達は公共と民間が互いに連絡をとりあって、緩やかなネットワークを作ろうと考えました。社会参加や生活訓練をする団体というのがまずあって、さらに教育訓練や就労訓練をする団体があって、居場所を提供する団体がある、就労というのはかなりの段階を踏んでこないとうまくいかないと思います。お互いに持ち分を生かして、次のステップに対応する団体へ若者を誘導するという関係が大事だと思います。

社会参加

これは段階がありまして、どの段階かを見極めて、私のところは社会参加、社会経験を積ませると

いう段階を非常に重視して、そして自信を取り戻す。今地域住民の方と若い人たちの交流を通じて社会参加を促すというのが特徴的な支援方法かなと思います。

求職活動

先程言いましたように、とにかく就職は出来ないけれども求職活動が出来るようにする。社会参加の次の段階は求職活動です。出来れば就労に結びつけたい。そんなことを考えています。

全部のことは絶対出来ません。ただし支援を必要とされている方、本人、当事者、それから親御さんこれは全部求めてきます。全部求めてきますけれども、自分のところが出る範囲で、確実に作り上げておいて、その範囲でやっていく。出来ないところは支援団体のネットワークでやってく。そういう考えが必要だと思います。

私どもは公的機関だから申し上げるのですが、公的機関ほど、民間の方との協働事業はお互いのパートナーシップの取り方が難しいと思います。先程の緩やかなネットワークを作っていくのがいいのかなと思います。

「ネットワークの形成による民間支援団体への誘導」についてですが、無業者の属性に合わせた支援策。色々タイプが違いますので一番最初に申し上げた分類も一つですけれども、それに合わせた計画を作っていく。それをコーディネートしていく。これらが大事ではないでしょうか。

若者が「社会的弱者」へ、新たな「差別問題」にも。

やはり気をつけなくてはいけないのは、国が実施した若者に関する調査の中には、求人と求職のミスマッチがあるので、若年無業者、ニートが増えているという認識があります。国がやっている若年者を対象とした施策はこのミスマッチを無くそうとするのが多いのです。若年者向けに、そういう施策をたくさん実施します。若い人たちが、企業にあうタイプじゃないから、企業に合うタイプにしましょうとこういうことをやっているんですね。確かに事実、職業能力を高める必要はあります。参考に、企業が若者にどんなことを求めているかというのですが、一番目はコミュニケーション力で、学歴ではないんですね。基本的なことを求めているんですね。逆に言えばコミュニケーション能力がないので、企業が求めていると言えると思います。

そういうところから、教育訓練をしなければならぬという意識が非常に強いわけですが、それでは、無業者が増えている原因は若者側にあるのかというと、私は無いと思います。みなさんも体験されたことがあると思うのですが、私達おじさん世代の若い頃はアルバイトに応募すると不合格にならなかったんです。面接に行くと言われたことは、いつから来てくれる、いつまで来てくれる、という話になりました。ところが今はアルバイトで選考され、落ちるでしょ。しかもパートの方も正社員の方も同じ仕事をやるんです。正社員の方は、管理監督とか手配をしますからその分は判断業務が入ったりするようですが、おそらくアルバイトもそういうふうになってきているんだろうと思います。仕事の内容がかつて求められていたものよりも、かなり高度になってきた。だから、そこからはじき出されるという時代なんですね。

だから、それは若い人の責任かと言えば違うと思うんですね。その辺りを押さえていないと、客観的に何か若い人が悪いという見方をされてしまう。責任が若い人にあるとされてしまい、若者バッシングが拡大して、新たな差別問題となってくるのではないかと危惧します。その辺りを警戒しておく必要があると思います。ですから、若い人たちの状態を一般的に正しく知るという作業が必要だと思います。あるいは、実証的な研究を学ぶことで正しく認識する。今かなりたくさんの研究が発表されていますので、そういうものを学習して正しい見方をするのが非常に大事なかなと思います。あと若年無業者が増えている根本的な理由は経済環境の悪化だと思います。仕事が無くなっている。学校から職業環境への移行がスムーズにいかなくなっている。私達の時代は先ほども言いましたが、学校を出

れば就職できて当たり前だという意識になれる状態だったのです。今はそれが無い。アルバイトでもそうです。あるいはテクノロジーの進歩だとか、求人求職のミスマッチとかそういう問題などもある。若い人たちが自身の問題ではなくて客観的に原因を探ることによって施策を考えていくことが重要ではないかなと思います。以上、当館のやっている事業、考え方、具体的な事例について申し上げましたが、皆様の活動に役立てていただければと思います。

【NOLA 佐藤透さん（自然流自立塾NOLA）】

吉野町で不登校、引きこもり、ニート、非行、その他もろもろ、社会参加できない青少年の自立支援を共同生活というかたちで行なっています「自然流自立塾 NOLA」の佐藤です。宜しくお願いします。

先程の森田さんのレジュメがこと細かく書いてくれているので、こちらで説明した方が早いかなと思うのですが・・・。「純粹引きこもり」「引きこもり」「ニート」「フリーター」。うちの場合はここに「不登校」「非行」も含まれます。

その問題に対して行政の施策も充実してきているのも事実なのですが、ただ、そのところが実際に役にたっているかどうかというと、「ウー・・・ン」というのがまだ結構あるんですよ。

ウチでいえば、「ニート」も「引きこもり」も「フリーター」も「パラサイトシングル」も「不登校」も「非行」も全部、自立できない。社会参加できない。という見方しかしていません。全部ひっくるめて「自立不全」とウチではそういう名前をつけて呼んでいます。

その「自立不全」の子がどういう状況なのかというのは、先程森田さんが説明して頂いたのではありませんが、だいたい不登校の経験者が半数以上を占めています。中学、高校。ウチに来る子でいえば成人の「引きこもり」「ニート」の子どもは8割は不登校を経験しています。不登校を経験して、何故また「引きこもり」「ニート」になっているかというときに、不登校になった段階で、まず大概是先程もでしたが、一番最初の相談窓口というのは児童相談所。子ども家庭センターが大半です。学校のカウンセリングルームなどもあります。奈良県はそれほど充実していないはず。それで行くだけでも、対応というのは、適応指導教室というのはごく一部奈良県内ではあるんですが、基本的に、親御さんがどうしたものかというところに相談に行って、まず言われるのが「あんたが悪い」。それで「あんたが変われば子どもは変わるよ」と。「じゃあこの子どもをどうしたらいいんでしょう」と言ったときに「子どもが変わるまでまちなさい」と。まず、99%言われます。「待ちなさい」と。

それで待ちました・・・。小学校、中学校というのは義務教育ですから、学校へ行っても行かなくても卒業させてくれるんですよ。じゃあ卒業しました。そしたら児相の管轄じゃ無くなるんです。義務教育じゃないから。今度は精神保健福祉センターあたりの管轄になる。今度は継続してその子の情報が共有されていない。じゃあ児相に行って「まだ、不登校のままなんです。高校にも行かないんですよどうしたらいいでしょう。」そしたら「ウチの管轄じゃないから」と、「保健福祉センターへ行きなさい」とあるいは「保健所へ行きなさい」と。それで行ったらそこでも「子どもが動きだすまで待ちましょう」と言われるんですね。それで、待てど暮らせど動かない。待って動く子もいるんです。その子の気持ちをわかってあげて、受容してあげて待ってたら、それだけで心の荷がおりて自分で動き出せる子もたまにはいる。多分10%ぐらい。あと90%はそのままずるずるずる〜と先延ばしになってしまう。それで就学年齢を過ぎて、大人になってどうしようかというはなしで「ニート」「引きこもり」という問題になってくるんです。

成人になると、今のところ公的機関の支援策はほとんどない。精神保健福祉センターはあるんですが、基本は、「本人を連れてきなさい」なので、要は引きこもっていますから出て来れないですね。

そういう子に関してはやっぱり「待ちなさい」になるんですよね。「待ちなさい」で、5年、10年過ぎていくのが現状です。先程の「ニート」の中に「引きこもり」も含まれるんですが、「引きこもり」の子もそういう部分で精神的な重さを抱えている。やらなきゃと思っていても怖くて出られない。もう人を見るのも怖いという人もたくさんいる。「ニート」の子はもう少しその辺は、精神的な部分は軽くて、仕事はどうしていいのかわからない。その悩みは持っているんだけども軽いかなという感じはします。

先程も言っておられた、軽度発達障害という子かなりの割合。ウチで言えば、成人の「引きこもり」の半数は、軽度発達障害と診断されているか、ウチに来て、ウン？と。これは医師の診断ですから、僕らが勝手に診断名をつけるわけにはいかないの、ただ、疑いがあるよねというのは、かなりの数にのぼります。そういう子たちも当然含まれるし、それと、奈良県の特長。県民性というんですかね。家に居ってしまうっていうのが多いんです。「引きこもり」もそうだし「不登校」も、家の恥やから外には出されへん。で、問題が外に出なくて誰の支援もうけられなくて、時間だけが過ぎていくパターンがものすごく多い。そういう意味では、こういう「不登校」に対しての相談会を開いても集まりは悪い、大阪に比べたら、大阪なんかでも、A'ワークさんですけれども、すすんでやってはって反響もものすごく大きい。800人も集まるなんてフリースクールの中では考えられない数なんです。僕らもやりますけれども僕らがやってもせいぜい2、30ですよ。今の現状なんですか。そういう意味でこういうきずが来ていない。奈良県もこの間「ニート」対策で、「ニートってなに？」みたいな集まりがあったんですが、たぶん来ていた人は欲しい情報は得られなかったんじゃないかなという感じ。というのが奈良県の現状なんですよ。

奈良県の現状は置いておいて、その自立不全に対しての支援方法というのは、どう方法があるのかというと、先ほど森田さんから、いろいろと話が出ていたんですが、だいたい先程も言った、精神保健福祉センター、保健所ですね。それと児童相談所も。子ども家庭センター。小さい子どもに関しては、次にカウンセラー、精神科医。というところが一番最初の窓口になっています。ウチのような共同生活にやってくるというのは、ほぼ最終段階の子が多いです。最終段階というのは、そこで居場所がある、フリースペースに行けたけれども通えなくて、精神的にしんどくなってきて、精神症状、神経症状、発達症状、手を洗うとか。手を洗って20分も30分も洗い続けるとか。自傷他害行為をするとか、家庭内暴力とかやって、もう親が手に負えない。頼むから何とかしてという状態で来る子がウチの割合大半です。その前に精神科。その次に、フリースペース、居場所と呼ばれるところ。そういうものの自立不全の子たちが、ほっとできる居場所が必要なんじゃないか。心が楽になる場所が必要なんじゃないか。というのでやっている場所。県内にも何箇所かあります。これは全国的な流れとして増えてきています。増えているんだけど、つぶれているところもたくさんある。居場所というのは、通えないになるので、先程言った純粹引きこもりというのは通えなくなります。無理なんです。出れないから、何とか通えるよねという「ニート」「引きこもり」というところまではフォローができる。それで通いながら人間関係を作っていく。いろんなイベントに出て作っていくというのがメインの仕事になっています。

その次、いよいよウチの出番になるんですけども、共同生活。それと厚労省の委託事業版の「若者自立塾」というのがあります。どちらも親元を離れて共同生活をするというのは共通なんです。この共同生活のスタイルをモデルにしたのが「若者自立塾」。何が違うかということ「若者自立塾」というのは期間が、入って出るまでは三ヶ月と決まっています。三ヶ月たったら必ず出されます。自立出来ても出来なくとも、制度上仕方がないのでそうになっています。

ウチも含めて共同生活というのは全国でも少ない。フリースクールの割合の中で1%あるかないかです。我々もそうですが、共同生活は本人が自立するまでずっと寝食を共にして面倒をみます。それが共同生活。なんで共同生活が必要かといえは、さっきのまず相談機関に行きます。「待てばよい」と言われました。「待ってもらちがあきませんでした。どうしたらいいんですか？」とそういう所に相

談すれば、答えが無いんですよ。何故かといえば、言葉でなんとかなるという問題ではないんです。

当然そのカウンセラーの所に通ってくる本人も少ない。通っている子に関しては、結構、社会に出ています。しかし、通えない子が大半なんですね。そのときどうしたらいいのという次の受け皿がない。無いので先ほどのフリースペース居場所のところに行くんですね。居場所はそういう意味では受け皿になるんです。けれども一つ問題があって、これはどこのフリースペースも抱えている共通した問題なんだけれども、居場所にくるようになったんだけれども、2年経っても3年経っても社会とつながっていかないという問題があるんです。何故かという居場所は、通ってもらわないと、来てもらわないといけないので厳しいことを言えない、厳しいことが出来ないんです。

社会に出よう、就労しようと思ったら、当然厳しさというのが出てきますよね。挨拶も出来なければクビになります。現実の社会を目の前にして、その居場所で楽しいこと、何やっても自由、テレビゲームやっても OK。そこにいたら楽しいです。来ている子みんなイキイキとしていますね。だけどその後の厳しいところにいこうと思ったら、ハードルが高くて行けないんですよ。それでそのときの考え方、フリースペースの考え方がそこから二通りできるんです。

ひとつは何とか A' ワークのようなところを使って、または自前で就労支援策を講じて、なんとか就労につなげようとするグループ。そしてもうひとつは、先へ行かない。社会に出て行かない。その居場所に集まったきり、居場所に引きこもった状態の子どもたちを目の前にして、「引きこもるのも権利だと認めなさい」というのもあります。これも現実です。

それでやっているところはこっちに置いて置いて、就労ということを考えてやっているところは、就労につなげていくだけけれども、それでもその先に行かない子が根本的な問題、構造的な問題としてフリースペースは抱えているので、先につながっていかないですって当事者の親が悩まれてウチらに来られる。

また家庭内暴力がすごくて、精魂尽き果てて、この子を刺し殺して私も死のうかと追い込まれている人たち。これフリースペースで対処できない。で、精神科に措置入院。けれども、3ヶ月経ったら追い出されるんですよ制度上。じゃあ帰ったら同じように暴力が復活する。で、親御さんはこのままやったらどうしようもないからと、病院からウチへ直行。そのまま連れて来られる子どもたくさんいます。

逆に何やっても出てこない、外に引っ張り出すことができない。引きこもったままずっと家にいる。これもどうしようもなくって、いろんな方法でウチに入寮してくる子がいますけれども、大概の場合は、自ら「僕は NOLA に行きます」「行きたい」と来る子は1割いないですから、大概、嫌々です。嫌々でも、「このままではいけないよな」とみんな頭では考えてますから、そこをうまくお母さん、お父さんも含めて話をして連れてこられる子。あと最悪、何やっても無理、頼むから連れて行ってってくれって言われるときもあります。基本的に僕はお断りするんですけども、ほんとに暴力が凄くて、どっちかが生きるの死ぬのという状況になっていたら、これはもう言ってもらえないですから、引っ張り出しにいくときもありますが、この間問題になった手錠でくくったりとか紐で縛ったりとかいうことはしません。行って説得します大概は。それで説得に応じる子、応じない子もいるんだけれども、親の説得には応じないけれども、他人が行ったら素直に従うという子が多いんですよ。それで連れてくる子。さまざまです。

それで、よく言われるのは、そんな無茶なことをして無理やりやったら「本人が傷つく」「傷ついたらどうするねん」と。だけど、もう家に引きこもって、八方ふさがりになって、どうしようもなくそこで暴力をふるっている子は十分に傷ついているんです。自分が動けない苛立たしさ、親のふがいなさ。誰も助けてくれない。苛立っているんですよ。自分でどうしようもなくって、それが暴力という形に表れているのに。で、そのときウチに来て一時的に親子関係が悪くなることもあります。

実際にね。じゃあウチに来ます。来て、朝7時に起きて、散歩して、昼間も作業します。普通に本を動かして、規則正しい生活をしているわけだから、今まで夕方に起きてきて、遅くまで寝て、

起きるときに寝て起きてってしていたのが、ころっと変わるから苦しいんですよ。

なんだけれども、最初の入寮時に親御さんにはそれを説明しています。必ず、脱走するか、俺にはむかんとするか、こんなとこ嫌だと言うか、ありとあらゆる方法を使って帰りたいと言う。これは当たり前だから、今まで住んでいた環境ところっと変わるんだから、しかも、社会性を持たない子が、多くの人間と共同生活する訳だからしんどいです。だけど、それを聞いても、どけておいて下さいと。右から左に聞き流して下さいねと言うんですね。それを、親御さんが実行できたら、ほぼ立ち直ったようなもの。

それが最初の二週間から一ヶ月の間、押し問答が続きます。気持ち的にも不安定な日々が続くんだけれども、一度そういったことを経験して、それで親に「迎えに來い！」という子は親の出かたを伺っています。試しているんです。今までは、受容しなさい。共感しなさい。この子の気持ちを汲んであげなさいと言われて、親はそれに全力をあげてきた。それが、受容共感することと言いなりになることが混同されているんですよ。大概。だから「これせえよ」「あれせえよ」と言ったら「ハイハイ」と全部言うことを聞いていた。それではじめてこれではあかんとNOLAに來て、ウチも動じないそういった状態に置かれて苦しいんだけれども、今までのパターンで子どもは「何とかせえよ」と言うんだけれども。いやNOLAで。「私、NOLAにやると決めたから、あんたはここで頑張らんあかかんねん」って、それが言えたら逆に子どもは「今度は違うぞ！」と、「本気や」と思ったら大概は“ここでちゃんとやらんなあかんな”と自覚が生まれるんですよ。そうしたら毎日のカリキュラムを自分からこなすようになってきます。この第一段階を越えることが自立の一步。

それでウチでは何をやっているかという、先ほども言った就労するのに、社会に出るのに挨拶も出来ない、仕事が出来ない子たちが殆どです。

日の浅い子は、当然朝起きて顔を合わせても知らん顔です。「おい！何て言うの？」「あっ。おはようございます」っていう感じ。それが三ヶ月、六ヶ月すると自ら挨拶が出来る。こっからスタートするんです。当然、炊事、洗濯、全部出来ません。でもウチは炊事当番を決めてやらせます。風呂もそう。お風呂の入り方もわからないっていう子も中にはいます。この間もそうだったんですが、お風呂から出てきて足元を見たら足が真っ黒なんです。「おい。足洗った？」「洗いました」「じゃあ、見てみいよ。その足」「黒いです」「黒いですじゃなくって、洗ってないやろ。タオルをつっこんで洗わんなあかかんねんぞ」って、そっからスタート。これ、社会に出てみんなで風呂に入るときに、こういう汚いことをしていたらつまはじきにされますよね。

それは学力じゃない。学歴でもない。基本的な社会生活、日常的な根本の部分が身に付いていない子が多いんです。だから、「おまえ変なやつ」と友達に言われた。「宇宙人」って言われた子もいます。発達障害で相手が何を言っているか理解ができないという子も中にはいるんだけれども、そういう子もいる。それで、いじめられた体験が“自分はダメだ”とイコールになってしまっている。

だから毎日の日常生活。ご飯を作ること。挨拶をすること。いつもスタッフが傍にいますから、やってなかったらすぐに突っ込まれるんですよ。突っ込んでいってたら、無意識のものが意識してやれるようになっていいたら、近所の人に挨拶したら、近所の人から誉められる。「NOLAの子は行儀がええなあ」って言われるとか。今だったら、田んぼやってるんですが、草刈り、道の草刈り。ウチから下の道までの2kmの山道を草刈りするんですねウチが。しんどいんだけれども、近所の地元の人に「喜いな〜。きれいに刈ってくれたな〜。ありがとう」って言われたらうれしいんですね。その“うれしい”“人の役にたっているんだ”という体験が、この子たちの自信になるんです。

“俺は何をやってもだめだ”“誰も認めてくれない”と思いこんでいたのが、そういう体験を通じて、人に認めてもらう。誉めてもらう。人の役にたっているという体験を積んでだんだん自信になっていく。自信がついてきたら社会に自動的に目が向いていくんです。なんで？「いや、俺にもできるかも」と言い出すんですね。

それで、「お茶片付けといて」と言って3つあるうちの1つを片付けたら、「これ全部片付けんかい。

これみんなセットやる」って怒られます。僕がスタッフに。怒られたときに「あ〜」って気付くんです。何回も繰り返しているから。お茶って言ったら“これを全部やらないとあかんねんな”とインプットされているから当然社会に出たら“出来るね”と思われる。その社会に出るといふのと、引きこもりやニートで何も出来ないというギャップを埋めるという作業をしないと、いくら就労支援で仕事を探してあげても結局は断られて続かないということになるんですね。

それと共同生活。さっきから出てきたんだけど、一番の特徴は叱れる。その場で叱る。その場で怒られるということで、どんなにマニュアルを引っさげてこういふときはこうするんです。あーするんです。と言っても、現実の職場に行ってマニュアルを出してきて、この場面ではこうする、なんて出来ないですよ。これはもう経験していくしかない。当然職場にだって怖い人がいる。じゃあ恐い人に怒られていちいち落ち込んでいて、“僕はだめだ。人生終わった”と置いていたら当然仕事は続かないですね。だから怒られなれる。

僕のことは恐いですよ。ウチの寮生たちは。怒りますから。だけど、それでウチを卒業した子たちがいうのは、社長に怒られて良かった。怒られるから、自分のために怒ってくれているんだと気付けた。だから社会に出ても怒られることを何とも思わなくなった。と言うんです。さっきも話しましたが、“失敗したらどうしよう”というのがものすごくあるんだけど、失敗したら怒られるだけやんと、シンプルなところに返って行って、それを実践させたら、叱られるというのは、自分のためになるんだと、経験から学ぶんですね。それが出来る大人が当然必要になってくる。ウチは、それを意図的にやっているんだけど、それともう一つは地域の大人がやっぱり、近所にいるカミナリオヤジじゃないけれども、間違っただけをしていたら間違っていると指摘してくれる人というのにも必要ですよ。そういう意味では近所もまき込んで、ビーチボールのサークルとかソフトボールとか近所と交わる機会を作っています。あるいは、地域の行事に積極的に参加しています。特にウチは、過疎地域なので、若い人がいない。ウチらの若者を出来る出来ない関係なく、そういう所へやらせたら、やっぱり喜んでもらえるんですね。それで喜んでもらえると同時に、「NOLAの何とか。どおやねん最近？」って。当然、日数の経っている子は元気になってきていて話も出来るようになってくるから、近所のおっちゃんにからかわれても、返せるようになってきたら、「ちょっとお前、うちでバイトせえへんか」って声をかけてもらう。また、当然、そうやって付き合いをしている人たちに、寮生のことも良く見てもらっていますから、その人たちに怒られる。説教される。仕事も「ウチにきて働かへんか」とかそういう形で、「仕事できないねんけど、ここまでのことやったら出来るからちょっと使ってみてくれへんか」っていう話の中で、地域の人たちの協力で使ってもらう。

今度、ウチから社会に踏み出すんだけどその中で、ちょっとレベルをおとしてもらって、こういう子やからと理解してもらって、実践を経験する。社会性を学んでいく。ウチでは出来ないことを社会で学んでいく。いわゆる研修制度みたいな。丁稚奉公みたいな形でも入れてもらったりしています。そういう段階を得たシステムというのが出来ないとなかなか就労につながっていかない。

だから一番最初の段階。家に引きこもっている状態から、就労までさまざまな段階があって、その子のステップに応じてちょっとずつ、ちょっとずつハードルを上げていかないと難しいというのがありますね。それでその時に何が必要かと言うと、さっきも出ましたが、こういうネットワークが必要。

ウチの場合地域のネットワークが最底辺にあるんですけど、それだけではなくて、フリースクールでもなんでもあって、あう、あわないというのがあるんですよ。本人の性格もあるし、生き方もあるし、特性もあってどうしても、“この子はウチではあわんな”という子もいる。例えば、精神障害があったりとか発達障害があったりする子もいる。そのときにじゃあどうやって次の段階に行くのか。この子にあう支援の受け皿というのがないのかというときに、やっぱりそういうことを専門にしているところがある。例えば、統合失調症を抱えている子なら病院につなぐ、あるいは就労をしたいという思いは持っている。ウチではある程度の作業はできるようになったんだけど、字が読めなかったり、計算が出来ない子がいる。じゃあそういうときにどうしたらいい。A' ワークへ行こう

いうのを受けよとか、そういうことをやっているところを紹介する。そういうネットワークが必要なんです。

そういう意味でまだ、特に奈良県。行政とのネットワークというのはものすごく薄い。今、ようやくいろいろと出来るようになりつつあるんだけど、まだまだ奈良県は遅れているのが現状です。

もちろん僕らもその民間のネットワークをつなげるという意味でいろんなことをやっているんだけど、やっぱり民間は民間同士でしかないから、民間でやることには限界があるのでそのところをつなげていってもらいたいと思っています。

そういうことが一番就労支援の現実に行っていること。就労支援の中で一番必要なことは先ほども出てきましたが、仕事が出来ない、あいさつが出来ない、時間が守れないというところを、あるいは一般常識を学ぶ。この一般常識というのが一番の曲者で、絶対に学校では教えてくれないんですよ。でもそこが一番ないから、いわゆる就労につながっていかない。その一般常識を教えてくれる場所というのを作っていないと、たぶん難しいだろうな。

例えば山の斜面で作業をしていて、僕が木の上にいる。そして工具を落としてしまった。そして下にいる者に「落したから工具取って」って。そしてその下をずーっと見てもらって、探しているんです。「もうちょっと右、左」とか言って。「違う。上や上」って言ったら空を見るんです。これは現実の話です。自分で場の状況を見てどの選択が正しいのか判断できないんです。何故かという、与えられる体験はしているんだけど、自分から考えてものを得るという経験が小さいときからものすごく少ないんですね。与えられてばかりだから、あるいは勉強はマニュアルばかり。試験があったりとか、なので経験することが少ない。

今はテレビゲーム世代だから、コミュニケーションをとって会話をする経験が少ないんですよ。学校でもそう。いま学校でケンカをしたら大問題になるんですよ。下手したら親が出てきて大変なことになる。それで先生もケンカしたらだめですよ。ケンカしないように相手のことを思いやりなさいよと、それは当然当たり前です。相手のことを思いやる。ケンカをしないということは当然なんだけれども、ケンカをして、やりあってわかりあえること。痛かったからもうせんとことという経験があるから、相手のことを思いやれるんです。でも最初から暴力はだめだとなってしまうと、「そんなんいけません」ってパーンと重をされてしまったら、なんでいけないのかがわからないんですよ。その場でやってみないとわからない。そのぶつかり合い。人とのぶつかり合いの経験がないから、ぶつかることを極端に恐れたり、避けたりするんです。

それもきめてこれは大人の社会の話なんですね。子どもはぶつけないとダメなんです。ぶつけて経験させて、痛たませて、その傷みで自分がどうすべきか考える。そういう場面を大人が作る。というより見守る。それともう一つ。白か黒か。決着をつけたがる。今のマスコミなどを見てもそうなんだけれども、あくまでも端から決着をつけている。こいつが白で、こいつが黒で悪いというようにする。学校でもそうなんだけれども、一人まつりあげてこいつが悪いってしたら、誰もリスクを負わない。負いたくないんですね。嫌なことをしたくないというのがあって。そうじゃないでしょう。これは悪いけどこういうこともあるでしょう。あなたの自己責任はどこにあるの？。自分で選ばせて、自分で決めて、自分で決めたことに責任を取れよと。

自分のやったことに責任を持ちましょうねということをやらせていない。やったらやりっぱなしっていう部分。で、大人が子どもが選んだことに責任を取らせる、自己主張はいいけども、自己主張したことちゃんと責任をとっているかというところの躰というか教え。また、大人が妥協しないという部分。

子どもに対して、例えば不登校の子どもが“学校に行きたくない。”“学校へ行きたくないんやったらNOLAへ行け”って言われる。“それやったら明日から学校へ行くからNOLAへ行くのをやめて”って言う。そしたら親は、“じゃあちゃんと行くんやったらいいよ”って言うんです。でも、これは全然ケジメをつけていない。次の日。“しんどい”“学校へ行きたくない”ってなるんです。“昨日言ったで

しょう”って怒るんだけど、”じゃあ、どうすんのよ””来学期になったら行く”って言う。“来学期になったら行くから””このテレビゲームのソフト買ってくれたら私来学期から学校へ行く””じゃあしょうがないね。これだけよ”って言うんです。これでケジメをつけてるでしょうか。子どもの言いなりになっているんです。実は、それに気付けない。その待てば良いということもそうなんだけれども、子どもの気持ちを受容して待ちましょう。どこまで待つのかということは何も決めていない。ルール。だから待っても待っても変わらない。僕たちが言うのは待つのは半年か一年。じゃあ待つけどもそのかわりにどうするの？。一年だったらどうするのっていうちゃんと約束事を決める。約束事に大人が妥協しないということを作らない限りこの問題は解決しない。

その時に、さっきも言った人権というのが出てくるんですね。ウチのようなフリースクールやフリースペースでよく出てくるんだけど、”共同生活は強制労働だ””子どもの人権無視している””引きこもっている子の人権無視している、侵害している””こんな強制労働をさせて軍隊のような生活をさせている””こんなので立ち直るはずがない”って。大概現場を見ていないんですけれども、そういう人たちは言うんです。じゃあ、権利って何？。権利を言うんやったら義務は？。当然、義務と権利は一体でしょう。今の教育の中で、義務と権利が一体だと教えていないんです。権利ばかり主張させて権利ばかり受け入れるから、あんたたちは何をやるのというと何もしない。それを、ウチの寮生にも言うんだけど、この間も、”俺こんなんしんどいねん。作業するのしんどいねん。もう1日ぼーっとしてたいねん”って言うんです。“いや、わかるよ。誰だって1日ぼーっとしてたいし、作業はしんどい。俺だって作業はしんどいよ。””じゃあ、一億二千万人の日本人がみんな作業するのしんどいねんって、だらーっとやってみ。どうなる？”考えてみ”って。はじめて”はあー！”。“そういうことやで”って。“しんどいのはわかるけど、働くっていう意味は、傍を楽にするために働くんやで、わかる？””まわりの人を幸せにするために自分が何をできるか。自分のできることを提供することが働くということやでそこを勘違いするなよ”って言うんです。

”じゃあ、働いてまわりの方が幸せになるために自分ができることを提供したら、今度は回りの方が自分に対していろんなことを提供してくれる。それが人間関係でコミュニケーションでしょう。”って言う話をするんです。“あー”って気付くんですね。もちろんそれは言葉で言っているだけだから概念になる。それを今度は、先ほども言った地域のボランティアであったり、地域のコミュニケーションであったりと実践をするんです。実践と理論を両方重ねていって、ようやくあの子らが次のステップに行く。理論で言っていることがどんなことかわかるということなんですね。そういうことをする。みなさんもこれはコーディネーターの講座なのでこういうことをコーディネートして欲しい。教えて欲しい。子ども達に。大人達に。またそういう場所づくりもそうだし、ネットワークづくりもそうだし。ネットワークは圧倒的に不足しています。特に奈良県は。そういう意味で是非お願いしたいと思います。

※ 今回の講演記録は、実際にお話いただいたものを一部省略しつつ、話し言葉のまま文字として文章化し掲載してします。そのため、前後のつながりやニュアンスなど不自然なところもあるかもしれませんがその旨、ご了承のほどお願いします。

※ また、実際の講演でしか伝わることのない、その場の空気、講演中の言葉の伝わり方、受け方、感情など、たくさんの要素があることを理解していただければ幸いです。

「答えはすべて現場にある」

講師：ちよんせいこ さん

第3日目は、“では具体的にどのように？”ということから、大阪で実際にコーディネーター、また、ファシリテーターとして幅広く活動をしているちよんせいこさんを迎え「答えはすべて現場にある」をテーマに、実践的なスキルから課題解決のためのプログラムデザインまで、具体活動に活かせるノウハウを教えてくださいました。

「答えはすべて現場にある」

ちよんせいこ（ファシリテーター）

【本日のゴール】

- ① 研修内に良好なコミュニケーション生み出し、学びあいの関係づくりをめざす
- ② 人権啓発・教育における地域課題の解決に向けた企画立案の手法について学ぶ
- ③ 以上を通じて、参加者のコーディネーション力向上をはかり、各現場で活かす

【進め方と言葉の説明】

- ・ ワークショップ
- ・ ファシリテーター
- ・ アクティビティ
- ・ アイスブレイク

【ルール】

- ① 間違いOK。すべてが学びにつながります。
- ② 楽しむ。

(1) アイスブレイクとコミュニケーショントレーニング

(2) 地域課題抽出

(3) 課題解決のためのプログラムデザイン

企画の構成要素

- ビジョン（目的）
- ニーズ（必要性）
- クライアント（対象者）
- コンテンツ（内容）
- パートナー（協働者）
- ファンド（予算）

ちゃんせいさんの自己紹介ののち、講座の流れの説明とともにレジュメに沿って【進め方と言葉の説明】がありました。そしてアイスブレイキングに！

『ご対面！1分間スピーチ』

- ◆ 参加者が縦2列に並んで椅子に腰をかけます。
- ◆ 隣の列の方と向かい合って、ペアになります。
- ◆ では、時間を2分間さしあげます。今から申し上げるテーマについて、2分間、ペアで対話してください。
- ◆ まず、握手からはじめます。
- ◆ では、テーマを発表します。
・「きのう食べたもの」・・・(今回の講座の例です。他のものでもOK)
- ◆ これは、コミュニケーショントレーニングをかねています。話す聴くのバランスを意識しながら交流してください。
.....このとき、2分間をどのように分けるかは決まっていません。ペアでバランスを意識するということになります。
- ◆ では、はじめます。

(交 流 中)

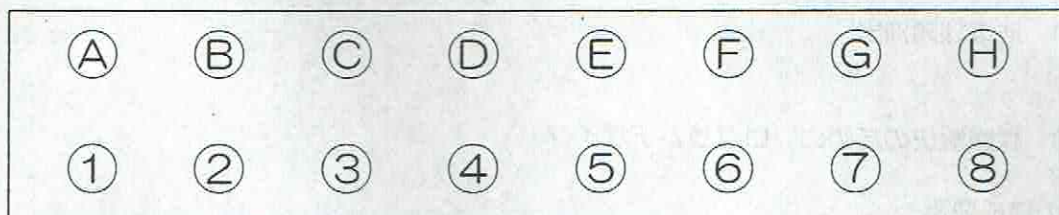
- ◆ はい。2分間たちました。ありがとうございました。
- ◆ では、ひとつずつ、ずれて座ってください。
- ◆ 次のテーマは「家族について」。家族だと思う人について話してみてください。
.....(今回の講座の例です。他のものでもOK)
- ◆ では、2分間、楽しく交流してください。では、はじめます。はい。

(交 流 中)

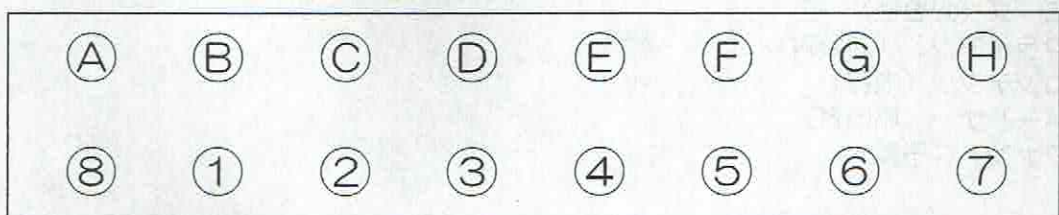
- ◆ はい。2分間たちました。ありがとうございました。
- ◆ では、ひとつずつ、ずれて座ってください。

.....(これを繰り返していきます。参加人数や時間によって調整します)

<1回目>



<2回目> それぞれ隣にずれていきます。



.....(これを繰り返していきます。)

このアイスブレイキングはとても簡単で、参加者同士が言葉を交し、交流をするのにとっても使いやすいと感じるものでした。時間もあまりかからず、時間の配分、調整などやり易い印象でした。また、初対面の人とも話し易いし（1対1の関係もあるのでしょう）皆さん結構話して楽しんでいました。

“このあたりで1分かな？そろそろ交替しないと、パートナーの時間が無くなるな”と気を使ったり、アイスブレイキングに、お勧めです。

書いてのアクティビティーは

『キーワードで自己紹介』

- ◆ リーダーを決めます。
- ◆ リーダーは、みんなとジャンケンをして勝った人がリーダーになります。
- ◆ それとサイドワーカー（この人は、良い聴き役です。リーダーをサポートしともにはたります）をコーディネーターであたりをつけます。
- ◆ A4のコピー用紙を準備します。
- ◆ そのA4の紙を半分、また半分と折って4つのコーナーを作ります。
- ◆ 左上には私の活動。右上には講座に参加したきっかけ。左下にはあなたの夢。右下には切実にこまっていることをお書き下さい。・・・（テーマはその都度参加者の顔ぶれを見ながら設定して良いと思います。）

私の活動	講座に 参加したきっかけ
あなたの夢	切実に こまっていること

- ◆ 書けたらリーダーから、書いた紙をみんなに見えるように見せながら、話をしてもらいます。
- ◆ お互い書いた紙を見せながら、書いてあることについてお喋りしてください。
- ◆ 時間は1分間です。それではどうぞ。

（ 1分間トーク ）

- ◆ はい。1分です。
- ◆ リーダーが次の人を指名してください。
- ◆ 時間は1分です。はい。

② 振り返り

- ～わかりやすく話をする。
- ～キーワードを書くことによって話が出るようになる。（自分の中で整理して書くので、話し易くなる）
- ～最初にも、4～5のキーワードを書いておくと話がしやすくなる。

次は、課題解決のためのプログラムデザインです。

活動のときコーディネーターとして困っていること、また「こうしたいねん！」ということヒヤリングしながらホワイトボードに示していきます。(今回は3人参加者の方が代表になって意見を出してくれました)

Aさん 困難をかかえている若者の支援をしていきたい

「ニート」「ひきこもり」……

活動を広報しているが、当事者の人に集まってもらいにくい などなど

Bさん 人権に関する講座を企画している

人が集まりにくい

などなど

Cさん 人権歴史散策を企画している

若い人の集まりが少ない

などなど

上記のような課題をホワイトボードに書いていきます。

その後、ヒヤリングに移り、いろんな“つぶやき”を集めていきます。

「Aさん、助成金は使える?」「具体的な支援の方法は?」「こんな人に聞けば、施設が見学できるよ」と質問やアドバイスも。

「Bさん、どんな人に来てほしい?」「そのときに施設を見に行くことは?」

「Cさん、ターゲットは?」「施設をコースに入れることは可能?」「コースにカフェとかある?」

という感じで、それぞれのやっている活動や課題をまとめ、それぞれを補っていきます。

それが、だんだんとまとまっていくんですね。つないでいく。

そして、「おっこれはできるぞ!」って希望が持てるプランが完成しました。

ちゃんせいこさんの見事なコーディネートに拍手です。

MEMO

- ◆ 全講座にくるといのはハードルが高い。
- ◆ 1回だけのオープン企画をやってみる。(それぞれがタイアップしながら)若い人の講座。カップル限定とか。いろんなカップルがあってももちろんOK。いろんな団体にも呼掛けたり。
- ◆ タイトルの“人権”もプロセスにあって、冠にあるんじゃない。
- ◆ 広報はターゲットを絞って、若い人たちから渡してもらおう。

次に、企画の構成要素をまとめていきました。

(目的) ビジョン

- ・奈良県における若年層の人権イベントへの参加を促進し、人権意識の高揚を図る。
- ・「ニート」や「ひきこもり」への理解を促し、関係を構築する。

(対象) (クライアント)

- ・奈良県在住の若年層(20代~30代)
- ・仲良しカップル、ペア
- ・「ニート」「ひきこもり」

(内容)

- ① 人権講座オープンカレッジを開催。
ヒューマンライツカフェウォーキング(歩くということは書いておかないと広告違反!)
- ② オプション企画
「ニート」支援施設のフィールドワーク

企画が出来あがったらチラシづくりです。

チラシのつくり方

1. キャッチコピー（つかみの文章）
1. ボディーコピー（説明の短い文章）
1. コンテンツ（内容）
1. ビジョンアート（イラスト／写真）
1. アバウトアス（主催者）

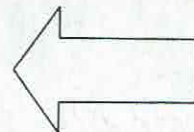


MEMO

空白も残しておいてOK。
空白が語ることがある。

メインのターゲットに届く
ところにチラシをおく

こんなチラシができあがりました！



最終的に、上記のようなチラシの作り方まで教えていただきました。“なるほど”と思う部分ばかりで、とても参考になりました。

MEMO

- ◆ 目的や理念だけを叫んでも何もかわらない。
- ◆ 具体的に参加しやすいように参加のしかりをつくる。
- ◆ できるだけ参加してもらえるようにつくる。
- ◆ どうやったら“参加したい”と思うかちゃんと聴く。
- ◆ あなたと一緒にやりたいんです。と、きっちりとしたヒヤリングをする。

「地域がわかる 地域がかわる！」

講師：池住 義憲 さん

第4日目は、愛知県より国際民衆保健協議会の池住義憲さんを講師に迎え「地域がわかる 地域がかわる！」と題してワークショップをしていただきました。はじめての参加者がほとんどでしたが、互いに緊張することなく終始和やかなワークショップとなりました。

その中で池住さんは、「人権をどうとらえるのか。それは誰の側にたって考えるかによって意見が違って来る」と語り、コーディネーターに関する部分では「自分は社会のどこに向き合うか」と、スキル以前の問題として、その姿勢の重要性を訴えました。「どう思うかによって問題に対する取り組み方、関わり方が変わる」それは「自身の生き方、在り方が変わる」ということ。

正直なところ「あ！」と思いました。第4回目の講座にして、本当に大事な自身の取り組みへの姿勢の大切さ。ここにきて原点に戻されたというような感じがありました。「あーそこやな。一番大事なのは」と思うとともに「よし！やるぞ！！」と“やる気”のもらえるく社会と向き合うワークショップ>でした。

まずは、参加者全員が輪になっての自己紹介からのスタートです。
“私の最近の関心事”ということをテーマに自己紹介をしました。

- ・外国と日本の関係
 - ・墓を建てるので、宗教や宗派の教えに関心がある
 - ・子どもたちや若い子たちは何に関心があるのかな？
 - ・地域で何かできないかなと・・・。
- などなど色々な関心事を披露してもらいました。

つづいて、グループにわかれての「ブレインストーミング」です。

【ワーク①】

『ブレインストーミング』

(Brain Storming)

脳 嵐 (ごちゃごちゃに混ぜる)

脳が固定されている。ブレインストーミングで柔軟に柔らかくできる。

■ルール

1. 思いついたものは何でもOK！（ひらめきが大事！）
 2. 質より量（とにかく数多く！）・・・理論的、系統的でなくてもOK
 3. 目の前にある紙（A3を4枚貼り合わせたものを使用しました。模造紙があればそれがいいです）にグループ全員が同時に書き始める。
思いついたものを声を出してしゃべりながら書く。
 4. 人の意見も“そうや！”と思ったら書いてもOK。
- ◆ 喋りながら、書きながら、聴きながら です。

■テーマ『私たちの社会（県、職場、家庭、地球なんでも良い）の中で、
なくしたいもの、取り去りたいもの、廃絶したいもの』
を自由にどんどん書いてください。考え、システム、行為何でもよい。

ブレンストーミングで書いたものを見ていきましょう。

MEMO

- ◆ 自分は社会のどこに向き合っているのかを端的に表しているのではないか。
- ◆ 無意識、意識的に書いている部分もある。
- ◆ これを自分の出発点にしたらい
- ◆ ブレンストーミングで書いたことからスタートする。

①
②
③
④

次に、そのブレンストーミングで書いたものを元に、次のアクティビティに移ります。
これは、グループでの協働作業です。

【ワーク②】

- グループで自分の書いたものを紹介しあって、それぞれの意見を見ながら紙に書かれているものの中で、これは「人権」問題だ！と思うものを○で囲んでください。
- 何故人権問題だと思うのか。何故違うのかを話し合いながらおこないます。
- 一人でも、人権問題だ！と思った人がいた場合は、点線の○で囲んでください。（一人の意見も大切にす）

MEMO

グループでおこなった作業を終えての意見交換です。

- 心の問題・・・話をしていく中で人権問題になっていった。
- 8割くらいが人権問題になった。
- それぞれの項目の中で、何に関心があるのかで結び付け方が違う。
- 人権をどうとらえるかで○の付け方が変わってくる。
- 病気・・・ハンセン病、エイズ——社会との関係
医学的な部分
- 消費税・・・誰の立場にたって見るかによってわかる。
- 人権をどうとらえるか。誰側の立場に立って考えるかによって変わる。
- 人権問題を肯定したくくりがあって、講座はつくられている。しかしそれを越えた色々なものがある。
- 人間の行為によって出来ているものは？みんなが無くしたいと思えば無くすことができるのではないか。
- 現実の社会でおこっていることを、人権の視点で読み解くと見直す出発点になるかもしれない。
- パチンコ店・・・人権の問題で考えると、地域が変わっていくかもしれない。
娯楽、たのしみ
- 地震、津波・・・被害をくいとめるため、前倒しして予算を使う。
- 答えはないが、自分がどう考えるか。

次は、書いたものの中でこれは「私たち地域社会」の問題と思うものに色をかえて○で囲んでください。

- 今、○をつけなかったのは、誰の問題なのか？
- 自分の問題だととらえることで、関わり方がかわってくる。
- 「自分は社会のどこに向き合っているのか」
これを抜きにして、コーディネーターのスキルばかり学習してもいかなものか。
- それは、どういう問題か。いったい誰の問題なのか。

【 ワーク③ 】

書いたもののなかでいくら時間がかかっても、私たちが力をあわせれば、無くせる！取り去れる！
廃絶できる！と、私が思うものを×で消してください。

■ワーク①は自分が無くしたいもの。ワーク③は廃絶できると思うかどうか。

■すべての人にとって、無くせると思うか思わないかで取り組み方がかわる。

■どう思うかは内心の自由。どう思うかによって問題に対する取り組み方、関わり方が変わってくる。それは、それぞれの人の生き方、あり方がかわるということ。

■理論を学ぶのは社会をかえるため。みんなが評論家で誰が社会をかえるのか。

最後は、『時代の贈り物』・・・未来に何を届けるのか。

■100年後の奈良県に何を届けることができるのか。自分が出来ると思わないか？

■100年前の話。100年後の社会に、どんな時代の贈り物をしたいか。

■100年前の人が今の時代を予言していたか。

との内容で、池住さんが準備くださったのは、明治34年（1901）の報知新聞でした。今から105年前の「20世紀の豫言」という記事。
大変おもしろいものがありますので一部以下に抜粋します。

(1) 無線電信及び電話・・・マルコニー市発明の無線電信は世界諸国に聯絡して東京にあるものがロンドン、ニューヨークにある友人と自由に対話することを得べし。

(11) 寫眞電話・・・電話口には對話者の肖像現出するの装置あるべし。

現在の携帯電話ですね。100年後の未来を想像した素敵な豫言がたくさんありました。

“100年後の社会”に私たちがどんな贈り物を届けられるのかは、自分自身が社会とどう向き合
って、どう関わるかによってかわってくるということでした。

前期：『人権啓発・教育コーディネーター養成講座』第5日目

「地域就労支援事業とコーディネーターの役割」

講師：富田 一幸 さん

前期の締めくくりは、大阪市の西成区を中心に、障害者の雇用支援やまちづくりに取り組んでいる、大阪市地域就労支援センターの富田一幸さんを講師に「地域就労支援とコーディネーターの役割」と題して講演いただきました。

富田さんは実にさまざまな事業を、しかも本当におもしろく事業化していて「あーええやん。」というヒントも万歳の講座でした。

富田さんの講座で感じたのは多彩なアイディアと行動力。そしてたくさんの“夢”の大切さ。「もっと多くの人に聞いて欲しいな。」と思う、元気のもらえる講演でした。

まちづくりあれこれ (メモ)

2006年8月

(1) 同和対策法終結と密集市街地再開発事業・・・1994年～2002年

- ・「西成地区の住宅事業分を除く・・・」
- ・「大阪市百年の都市計画を問う・・・」
- ・「2兆円、20年の密集市街地再開発」
- ・西成地区まちづくり委員会の結成
- ・大阪市まちづくり活動支援制度
- ・住宅改良事業の新たな展開と建設省まちづくり協議会支援制度
- ・大阪市民間老朽賃貸住宅建替支援制度 (たてかえサポート)
- 「土地差別と闘う」「もう、どこにも行かなくても良いまちづくり」

(2) 金のない大阪府との行政闘争・・・1998年～2004年

- ・「逆風の中、解放同盟が老人医療費助成廃止に同意」
- ・「エル・チャレンジ」の結成と「総合評価一般競争入札」
「施設なき授産」「罰するより誉める障害者雇用」
- ・「高齢者生きがいワーカーズ」「まちかどデイハウス」
- ・第二期太田府政に「61の医療福祉政策」の提案 (ポスト医療費助成)
「真に必要な人に、真に必要な時に、真に必要なサービスを提供する」
総合生活相談事業、ジョブ・ライフ・サポート事業
- ・「地域就労支援事業」・・・福祉と労働に「橋を架ける」
「セーフティーネットよりトランポリン」

(3) 日本型CANの設立をめざして・・・2002年～2006年

- ・西成区に市民活動高揚期訪れる
「道路に寝る人、通り過ぎる人」「やってあげる、やってもらうではなく、やっていこう」
「NPO (釜ヶ崎支援機構等) がまちの議会？」
「町会のないまちに町会をつくる (ソーシャル・インクルージョン町会? 住民とは、そこに住む人、働く人、行き交う人)」
- ・「日本型 CAN 設立研究会」の発足
「フィールドは西成、ネットワークは全国」
「法がないと官は動かない。儲からないと民は動かない。しかし、法がなくても、儲からなくても、社会問題は解決しなければならない」

- ・プロムリー・バイ・ボウを訪ねて・・・CANに学ぶ「社会問題は桎梏ではなく種」
3つの理念・・・「公に依存しない」「制度よりニーズ」「あらゆるものを活用する」
8つの原則・・・①組織より人に、アイデアを投資する ②公・民・社会を結ぶパートナーシップ ③うまく機会を捉える ④門戸開放と柔軟性 ⑤出来事を問題ではなくチャンスと捉える ⑥can notではなくてcanの「文化」 ⑦「構造」より「人」
- ・ポーニャを訪ねて・・・社会的企業とバンカ・エティカ（倫理銀行）
ソーシャル・エンタープライズ（社会企業）とソーシャル・ファーム（障害者雇用のための社会的企業）
社会的協働組合「A型」と「B型」
- ・日本型CANをめざして
NPOと企業のJVで府立公園の指定管理者に⇒「公園で寝ている人から公園で働く人へ」
古着リサイクルでまちづくり（もったいないクラブ）、しごとづくり（ソーシャル・ファーム）⇒「まちはリサイクル、ひとはリ・トライ」

(4) (株) ナイスとソーシャル・エンタープライズ・・・1997年～2006年

- ・コラボレーションプロジェクト・・・「エル・チャレンジ」「合資会社リフォームセンター」「西成地域商業情報化事業共同組合」「在宅ワーカーズ・クリック」「介護用品の店チャレンジ」「調剤薬局ナイス薬局」
- ・コミュニティーデベロッパーをめざして・・・4つの民間老朽住宅建替支援事業、デザイナーズマンション「プランコート」
- ・流れを変える・・・ベーカリーショップ、仏蘭西レストラン、整骨院、レディースマンション、福祉マンション、コミュニティー食堂、古着ショップ
- ・株式会社の非営利事業・・・ホームレス支援のための「くらし応援室」

(5) 反動に抗して—西成のまちづくりの、いま・・・2006年～2008年

- ・「官から民へ」・・・「官だけではない公」＝「新たな公」
「市場原理だけではない民」＝「ソーシャル・エコノミー」
- ・ホームレス全国調査・・・「ホームレスのいない社会」VS「ホームレスに優しい社会」
⇒全国の野宿地に「新たな公」を訪ねる。
- ・生活保護改革の先送りと保護費の削減（年間500億円）・・・「削減」ではなく「還元」
西成区の500億円の保護費を地域経済に還元し「二つのCB（コミュニティー・ビジネスとコミュニティー・バンク）」を育てる。
「くらし組合」で実績⇒4,000人の組合員で銭湯の高齢者料金
自立への三段階・・・保護を「終える人」「減らす人」「活かす人」
- ・芦原病院「民事再生」の轍を踏まない・・・介護保険法、障害者自立支援法、ホームレス支援法、生活保護法 etc
法や制度に依存しないが、法の制度撤退は許さない。
「政治参加」を「やりくり」に解消してはいけない。
- ・大阪市の「後出しジャンケン」・・・コンプライアンス（法令遵守）と効率化（市場原理）だけで都市は経営できない。
同和行政の転換は、「新たな公」への挑戦だった・・・
内に籠もらず、外に発信する一人間都市を担う「社会運動」へ。
- ・「社会運動のあるまち、西成」の灯を消さない
「投資」「共済」「自力自闘」で「明朗会計」な解放同盟へ。
苦闘する朝鮮総連、民団、労働組合、釜ヶ崎の市民運動とともに。
社会事業家と社会運動家を育てる「交流の場づくり」に人権文化センターの命運をかける。

後期：『参加型人権学習ファシリテーター養成講座』第1日目

「のびやかに自分になる」

講師：伊勢 達郎 さん

後期に入っの第1日目は伊勢達郎さんの「のびやかに自分になる」。徳島でフリースクール「T O E C」を主催する伊勢さんは、P.C.A（パーソン・センタード・アプローチ）カウンセリングの達人でもあります。伊勢さん流“子育て・親育て”そして「あるがままの存在を認めあう」という人間関係のあり方、つまり人権の基本について、じっくり学ばせていただくことができました。

ビデオでは、気の済むまで泣いた後、すっきり笑顔で仲間に合流する子。真っ裸で泥んこ遊びに夢中になる子・・・。「ここに来る子は存分に自然を体験して、思いっきり他者に受容してもらいながら自主性を育てている」と伊勢さん。この映像で伊勢さんの基本姿勢のようなものを確認しました。

その後いくつかのアクティビティを。まずは二人一組になったのカウンセリング・マッサージ。頭、肩など同じ部位であっても、ひとそれぞれによって微妙に“ツボ”は違う。どこが気持ちいいの、強さはこのくらいでいいか、相手の気持ちを聴きながら揉んでいく。揉み手が一生懸命になりすぎて疲れてしまうのもいけない。これによって家族間であれ、ボランティア活動であれ、何であれ相互支援というのは一方通行ではいけないし、どちらかがヘトヘトになる関係ではいけない、ということがよくわかりました。そして実はこれが、P.C.Aの基本なんだということも。

さらに「良い関係性」のためのロールプレイング。たとえば、子どもが食事に出されたものを残した。さあ、あなたはどう思う？そして、それを実際に他人に言われてみてどう思うか？ロールプレイで体験してみて、相手のことを受け入れるというのはどういうことか。どういう言葉がよい関係とよい成長を促すかを実感しました。

日常生活の中においても、相手の言うことに耳を傾け「そうだったんですね」とまず相手の思い、立場を受容する。そして必要ならこちらの思いを伝える。それで問題解決の答えが見えたり、関係修復が思いのほか進んだりするものなのだ。と、気付かされました。

【タイムテーブル】

- 10:00 「親の目子の目（トエック幼児フリースクール）」放映
- 10:20 P. C. A（パーソン・センタード・アプローチ）とファシリテーション
（演習と小講義）
- 12:30 昼食
- 13:30 気づきと自己理解のためのヒーリング・レクリエーションワーク
もしくは、聴き方レッスン（ロールプレイング）
- 15:00 休憩
- 15:15 あるがままの存在を認め合う場を育むファシリテーションとは
～やり方より在り方～
- 16:00 まとめとふりかえり

自己紹介をかねてのレクチャーMEMO

- ◆従来型のファシリテーション。導くことが指導力。固定観念が壊れていない。
- ◆現状として、“成長はよいものだ”という考え。←これがばれた。
- ◆戦争がおきたり、爆弾をもっている人が言うならまったく説得力がない。
- ◆ファシリテートというのがともすれば、促進するというのが目的となってしまう。

伊勢さんの自己紹介及び短いレクチャーのあと、伊勢さんが代表をつとめる“自然スクール TOEC”のビデオを見せて頂きました。(具体的には、TOEC の数ある活動の中でもメイン的な“TOEC 幼児フリースクール”“TOEC 自由な学校”を地元民放が取材し放映した映像でした。)

自然スクール TOEC の総合案内 (資料) より抜粋

あなたはあなたのままでいい

主体性の尊重

自然と人との自由なふれあいの中で、自分のやりたいことを大切にしています。指示や評価から解放されて、ひとりひとりが自分で判断し、さらに人と心を通わすことができる場所づくりを目指しています。

人は正直な気持ちで行動しながら、受容され共感されるとき、誰もが適応し成長することを実感していきます。そして、その人のやり方で問題を解決していく力を内在していると考えています。

自然からの学び

自然教育

土・風・火・水・・・様々な原体験を通して智恵や感性を育み、創造力をかきたてます。

徳島県阿南市にある TOEC 農園では、農作業体験はもちろんのこと、四季折々の生き物や草花とふれあいが楽しめます。農園の野菜や果物を収穫して調理することもできます。

“幼児フリースクール”“自由な学校”のビデオを見た後、チェックインミーティングに。自己紹介と自分自身が今“こんな気持ち”ということ語っていく。でもこれも強制ではなく、“自分自身が今どうなのか”ということが大切で、話さないことも OK なのです。

『チェックインミーティング』MEMO

- ◆手続き。自分が自分を感じる必要がある。
- ◆順番にという、前の人と後ろの人が出来てしまう。隣の人が話していると次は自分が言わなくてはならないと思ってしまう。
- ◆パスもあり。“待つ”というのもあり。
- ◆優先順位は、“今こんな気持ち”。
- ◆今思っていること、感じていることを自由に言ってもらおう。

(ミーティングを終えて・・・)

- ◆場が流れることにチャンスを与えることが必要。場があたたまる。
- ◆喋ったあと楽になって場が和んだ。
- ◆場が力をもって安心できる場になった。
- ◆間違っているというのではなく、同意が教育するし、人を癒す。
- ◆喋っていない人に不安を与えるのではなく、その人が“いるだけで貢献している”ということ。

その後、P. C. A (パーソン・センタード・アプローチ) とファシリテーションの演習と小講義に。

- ◆二人一組になっての、カウンセリング・マッサージです。
- ◆一人が椅子に腰をかけ、もう一人が後ろに立って、前の人の頭や肩をマッサージしていきます。
- ◆このとき大切なのが、マッサージを受けている人(前の人)が、気持ちがいいか。何を思っているかということ。でないとマッサージをしていてマッサージになっていないということになりますから……。
- ◆揉み手の人(後ろの人)はついつい、自分で解釈し、“ここが気持ちいいはずだ” “力加減はこんなもの” “僕はマッサージがうまいから任せておいて” となってしまいます。
- ◆でも、一番大切なのは、マッサージを受けている人の気持ちですね。
- ◆前の人の気持ちをわかってあげることが前提です。では、どうすればいいか？簡単です。前の人に気持ちを教えてもらうということです。
- ◆“強いですか？” “弱いですか？” “力加減はこんなものですか？” “このあたりですか？” “上でですか？下ですか？”と。そして、マッサージを受けている前の人にも正直に、遠慮することなく自分の思いを伝えます。“強いのでもう少しよわく” “もう少し右です” “それぐらいが一番気持ちがいいです” って素直に。
- ◆マッサージを受けている人の気持ちではなく、揉み手側の思いばかりだと、“ボク・センタード” ということです。

(カウンセリング・マッサージを終えて) MEMO

- 1) 聴く
- 2) 正直
- 3) 変えようとしな

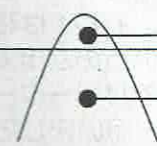
- ◆オープンマインドにならないと、とらわれてしまい見えなくなってしまう。
- ◆体験をもっている人はすぐにやってしまう。
- ◆話の腰を折ったりしないで聴くこと。また湧き上がった気持ちを正直にいう。
- ◆そうすれば必ず関係はよくなる。互いに育ち合うことができる。

MEMO

- ◆大人の思いに他者を近づけたりするのが教育の指導力。
達成したり克服させることが教育。

↓
これよりも、信頼、協和、変革の力が溢れ出すファシリテーション。

- ◆変革のポイントは相手にある。
- ◆開いた感性、安全な場にはパワーが生まれる。
- ◆プロセスが教育すると思われる(スキル、やり方、教え方)が決定的に与えるのは、その人の人柄。狙ってやるのものではなく届くものがある雰囲気。



スキル。ほとんどのセミナーはここばかり。あたかも学んだ気になってしまう。

ここが大事。ここが大事だけれどもここが教育するわけではない。
スキルをこえたスキル メタスキル。

- ◆人は教育すること、しつけすることはできない。学び手はその気にならないとどうしようもない。
- ◆どんな時に人はパワフルになるのか。自分の気持ちを認められるか。寂しいときは寂しいと。
- ◆ジャッジしない安全な場。それがあれば立ちあがれる、歩いていけると思う。
- ◆援助者は信頼すること。ダメといって、スポイルすることではなく、プロセスが大事だと思う。
- ◆場が仕事をやる

午後からは、ロールプレイングを。

◆まず、質問です。

- | | |
|---|----|
| <ul style="list-style-type: none">① 僕、ワカメ食べられへん。② とにかく学校が変わらんとどうしようもないな。③ カウンセリングの勉強難しいので私には無理です。 | ※1 |
|---|----|

と、相手が私に言ってきました。これに対して、普段どのように言っていますか？

- ◆それぞれの項目の返事をコピー用紙に書いていきます。
- ◆二人一組になって、書いた用紙を交換します。
- ◆一人が質問(※1)をこの役になった気持ちでよみます。
- ◆もう一人が交換した用紙をもとに、役になったつもりで応えます。

◆これは、普段自分が言っていることを自分が言われたらどう感じるかというロールプレイです。
例 A「僕、ワカメ食べられへん。」
B「なんで。食べやんなあかん。」

- ◆間違った会話はありません。こんな気持ちになるんだと確認して欲しい。
- ◆役割を交替します。
どんな気持ちになったかを言い合う。中身には入っていかない。

◆次に会話を続けます。
A「だって、食べられへんねん。」
B「ちょっとでも食べてみた？。食べやなおっきくなられへんで」
.
.
.

- ◆数分間、会話をくり返し、役割を交替します。
- ◆どんな気持ちになったかを言い合う。
- ◆二人でふりかえったあと、全員でシェアリングします。

-
- ◆「食べてみようかな」・・・これはゴールではない。受けとめて聴いてもらえたかが大事。
 - ◆共感の関係 ⇄ 許可の関係
 - ◆あなたの会話をうけとめようとしているのに、くみとってもらったという実感がないといかない。
 - ◆あなたの気持ちはこうなんです。とうけとめる。
 - ◆言った人にスペースをあたえて同意する。
 - ◆意見を言わない。調和するときはそのまま居場所を見つけられたとき(許可ではなく！)

このロールプレイ。日常的に自分がどのように他人に接しているかを振りかえるものとなりました。どうしても、相手を受け入れる前に、自分の意見や許可になってしまっている。もしくは相手を説得しようとしていることに気付きます。ワークショップなどでよく“傾聴”というのが出てきますが、このロールプレイをおこなうことで大切さが実感できると思います。ファシリテーターが意識をしながらトレーニングする必要性を感じました。P.C.Aは人間関係の基本だと思いました。

ワークショップにかんして詳しく書かれている本がありますので紹介します。

参考文献：『ヒーリングレクリエーションのすすめ』 伊勢達郎著 (財)日本レクリエーション協会

後期：『参加型人権学習ファシリテーター養成講座』第2日目

「ワークショップで感じる・考える」

講師：栗本 敦子 さん

後期第2日目は大阪でファシリテーター・ラボを主宰する栗本敦子さんの「ワークショップで感じる・考える」。

二人一組で今日の気分や趣味を「からだ全体で共感を表しながら、心を相手に向ける」「質問しない」で傾聴しあうウォーミングアップのあと、全員で今日のWSのルールの確認。出された意見を前に掲示しながら合意形成をしていきます。次のワークでは「〇〇の人は××だ」や「日本人は△△である」と思いつくままに出し合い、世の中にあふれるさまざまな“決めつけ”の弊害を学ぶ「三段論法の落とし穴」。続いて多数派、少数派を体験してみて、それぞれどんな思いになるかを体験。後のふりかえりで、社会の中にあるシンドさに気付きました。

終盤は「遅れてきた定着民」というワーク。ある集落に「よそ者」が入ってきた。よそ者をどうするか。社会の中でどう生きるか？。人間関係は？という普遍的総合的なテーマに迫る奥が深く興味深いものでした。

はじめに栗本さんからの簡単な自己紹介があり、ウォーミングアップとして「イスとりゲーム」を参加者全員でおこないました。そののち参加者で「今日のワークショップでのルール」をつくりました。

- ◆「今日のワークショップでのルール」というテーマでみんなで意見を出し合いました。
- ◆みんなで“今日はこんな場にしよう”ということを確認です。
“今日のワークショップのルール”をその日参加したみんなで決める。合意形成です。
- ◆みんなの出す意見を栗本さんが模造紙に羅列していきます。(みんなに見えるようにしながら)
- ◆それをワークショップが終わるまで、みんなの見えるところに張っておきます。

今日のワークショップでのルール

- ・ 批判しない
- ・ 相手を尊重する、共感する
- ・ 問題解決型にする・前向きに
- ・ 時間を有効につかう
- ・ 後悔しないように思いきりしゃべる
- ・ 口外しない、外に持ち出さない
- ・ ここだけの話にする
- ・ 自分の意見として言う
- ・ ちゃんと聴く
- ・ パスあり

★次回は誰かつれてくること！！

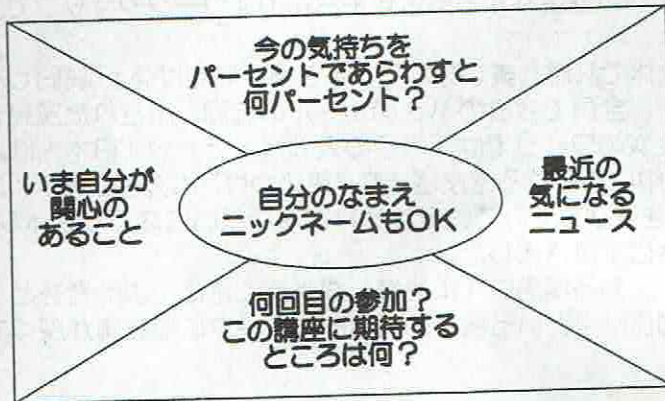
※このルールについては、今講座参加者で確認したものですので、今講座限定ルールです。

※連続講座の場合（参加者が一定していれば）は初回に確認して、一貫してのルールとしても良いと思います。

※もちろん、気が付いたところは、自分たちのルールなので、途中書きこみもOKです。

続いて、人権ワークショップを体験しよう！ということで『参加者はどんな人』からスタートです。

- ◆まずは個人作業です。
- ◆使用するのは、A4程度のコピー用紙とマジック。
- ◆用紙にそれぞれ図のようなことについて書き込んでいきます。



- ◆参加者全員が輪になって座り、書いた用紙を見せ合いながら自己紹介していきます。
- ◆このときに用紙に書く内容はキーワード程度でOKです。
- ◆自己紹介をするとき“何を言っているのかわからない”ということがありますが、まず、テーマにそってキーワードを書くことによって随分と話しやすくなります。自己紹介もいきなりでは口が開きにくいですが、ちょっとした工夫でスムーズになります。
- ◆「気持ちをパーセントであらわすと？」のところは、個人の自己紹介のためでもあるのですが、すすめる側にとっての手がかりやきっかけにもなります。“じゃあ、今日一番元気な〇〇さんから”って……。また、気分ののっていない、不安な気持ちも知っておくこともできますから。これは、ウォーミングアップにとっても使いやすい方法だと思いました。

その後、栗本さんは、参加者が書いたそのシートを壁に張っていきます。おこなった作業の成果をみんなの見えるところに張ることによって共有化するというのです。

その後ワークショップに！
『日本人は〇〇である』というワークをおこないました。これは、いわゆる三段論法です。

「A=B」「C=A」「C=B」

『日本人は〇〇である』

- 1) 「日本人は〇〇だ」
- 2) 「私は日本人だ」
- 3) 「だから私は〇〇だ」

というものです。

「〇〇は××だ」「あの人は〇〇だ」「だからあの人は××だ」という考えについて、自分におきかえてみることで、自分のステレオタイプの誤ったところに気付くかもしれません。

その後、「多数派・少数派体験ゲーム」「遅れてきた定着民」という二つのワークショップをおこないました。

そのなか、「遅れてきた定着民」の概略をすこし。

『遅れてきた定着民』

- ◆これはロールプレイングです。
- ◆ここに、ある集落があります。そこには古くから住んでる住民が暮らしています。ある日、その集落に武装した二人組みがやってきます。その二人組みはその集落に住みたいと思っていました。
- ◆グループの中で、役割分担をします。古くから住んでいる住民（A、B）と集落にやってきた二人組み（イ、ロ）です。
- ◆集落には、山があり、川があり、海もあります。
- ◆その集落の地図（イラスト）を各テーブルに渡してロールプレイングがスタートします。
- ◆話す内容は、それぞれの役割になりきって自由に話し合ってください。

- 例 イ)「こんにちは」「私たち二人ははじめてこの集落に来ました」
ロ)「私たちは怪しいものではありません」
A)「怪しくないって言っても銃をもっているじゃないですか」
イ)「決して怪しくないんです」
ロ)「私は銃を持っています」「あなたたちを助けることができます」
B)「どういうことですか」「私たちはこまっていますよ」
- ・
・
・
- イ)「私はこのあたりに住みたいと思います」（地図を示しながら）
B)「仕事は何かできるのか？」
- ・
・
・

と、話は自由に進んでいきます。役になりきってやりとりを楽しんでください。

- ◆その後、グループでどんな話になったかを出し合い、感想を全員でシェアリングします。
- ◆それをうけ、「遅れてきた定着民が不利なこと」（条件）と「その結果おこること」について意見を出し合いました。

こんな意見がでました。

「遅れてきた定着民が不利なこと」（条件）

- ・習慣をしない、信頼関係がない
 - ・何も無いところから仕事をさがす
→条件が悪くてもやらないと仕方がない
 - ・気象条件がわからない
 - ・拒否・排除される可能性がある
- ・
・

「その結果おこること」

- ・何ごとにも遠慮がちになる
 - ・誤解が生じてトラブルになるかも
 - ・助けてもらえない
 - ・文化を守ろうとしたら、先に定着している人から非難される
- ・
・

※ロールプレイングの話の流れから、いろんな感想が出ました。

ロールプレイングのあと、「ワークショップとは？」とのレクチャーにうつり、そのなかで①ワークショップの特徴は②なぜ参加型でやるのか③学びを促進する感情・阻害する感情④学ぶ場をつくる上で大切なことはの4点についてグループで意見を出し合いました。

こんな意見が出ました（各意見をあつめ抜粋）

<p>①ワークショップの特徴は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の人と仲良くなれる ・合意形成ができる ・感情も大事にされる ・ちょっと恥ずかしいが発見がある ・ねむたくない ・参加に実感あり ・自分の意見が言える ・ ・ ・ 	<p>②なぜ参加型でやるのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な意見を知る ・くり返しのトレーニング ・皆の発言を引き出す ・尊重される⇒自信になる ・対等の関係 ・他者の立場を理解できる ・ ・ ・
<p>③促進する感情</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け入れられた ・あたたかい ・楽しい ・すばらしい ・自由 ・うれしい ・必要 ・ ・ ・ 	<p>阻害する感情</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恐れ ・イライラする ・退屈な ・不安な ・とんがった ・無力感 ・疲れる ・ ・ ・
<p>④学ぶ場をつくる上で大切なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中しやすい雰囲気 ・意見の尊重 ・時間のゆとり ・冷静・フェア ・ルールの共有 ・楽しさ・笑顔 ・待てる ・ ・ ・ 	

さいごにシートを使ってのふりかえりです。（ここでも一度、個人作業でかいてみる。）

①今日学んだこと

②もっと知りたいこと

③これからやろうと思
うこと

※この“ふりかえり”のときもそうなのですが、まず、一度個人作業として書いてみる。自分なりに整理もでき随分とはなしやすくなります。

栗本さんから進行レジュメを用意いただいたので、資料として掲載します。

ワークショップで感じる・考える

○はじめに

ウォーミングアップ

ルールづくり

傾聴のポイント

心を相手に向ける

からだ全体で共感を表しながら

質問しない

○人権ワークショップを体験しよう！

参加者はどんな人

日本人は〇〇である

多数派・少数派体験ゲーム

「遅れてきた定着民」

Workshop … 工房、作業場

Facilitator … 促進役、活性化する人

○ワークショップとは？

ふりかえり・ワークショップの特徴とは？

なぜ参加型なのか

さまざまな感情

学習の場づくりとファシリテーターの資質

○これからにむけて

参考文献：『ファシリテーション革命』岩波アクティブ新書、中野民夫、2003年）
『ワークショップ』岩波新書、中野民夫、2001年）
『人権教育ファシリテーターハンドブック』『いっしょに考えて！人権』
『いっしょにすすめよう！人権』ERIC)

後期：『参加型人権学習ファシリテーター養成講座』第3日目

「参加型学習の手法と効用」

講師：岩山 仁 さん

後期第3日目の講師は riccrea の岩山仁さんでした。前回の栗本さんから「さわやかな岩山さん」との宣伝もあり期待も大きく、当日お会いして納得。むっちゃさわやかな方でした。

で、ワークショップの方なのですが、如何せん岩山さんに本当に申し訳がない程の参加人数で、“グループワークができる〜？”という具合でした。

しかしながら、その分岩山さんの個人授業、ちょうど大学のゼミっぽい感じで、アイデアが感じられるアクティビティーをはじめ、普段の講座では聞くことが稀なファシリテーターとしての裏話的な貴重な話も聞くことができました。

シールを使ったワーク（色付きの丸いシールです）を行ないました。何色か色の違ったシールを背中に貼り（本人には見えないように岩山さんが貼っていきます）言葉を使わないでグループをつくるというものなのですが、中に1枚、シールにある文字、色の表現の混ざり合うものが含まれています。（ここで文章で表すのにも難しいところが・・・）そこで、どのようにグループになるか、ペアになっていくかが鍵となっていきます。

このワークを通して内集団と外集団との関係や、あるカテゴリーによってひとくくりに見てしまう関係性を体験しました。

人数的に難しいところも多くあったと思うのですが、岩山さんに色々工夫をいただき、充実感タップリの学びの場となりました。

「ワークショップ」と「ファシリテーター」

岩山 仁

1. 参加型学習の意義

- * 聞いたことは 「 忘れる 」
- * 見たことは 「 覚える 」
- * したことは 「 わかる 」
- * 見つけたことは 「 出来る 」
- * 自分ことなら 「 する 」 (実践・行動)

2. 「ワークショップ」とは？

☆「ワークショップ」の組み立て

1) 目標

- ① 目的(テーマ)の設定
- ② 参加対象者の見極め(対象者・人数)
- ③ ゴール(あるいはスタート地点)の設定

2) 構成

- ① 導入(研修の目的の伝達、自己紹介、アイスブレイカー)
- ② 本題
- ③ 新たな課題(次への課題、個別の課題)の発見
- ④ 実践・行動への橋渡し

3. 「ファシリテーター」とは？

1) 「ファシリテイト(facilitate)」の意味

- ① 容易にする
- ② 促進する
- ③ 環境を整える

2) 「ファシリテーター」の役割とそのポイント

- ① 雰囲気づくり
- ② 「学習環境」の調整
- ③ 働きかけと受容態度
- ④ 「気づき」の誘因
- ⑤ 「気づき」の共有
- ⑥ 問題の掘り下げと整理
- ⑦ 実践への橋渡し

MEMO

- ◆いろいろなことを出来る人は多いかも知れないが、する人が活かしているかといえばそうではない。
- ◆自分のしていることと社会が結びついていないと行動にうつせない。そのことを気付いてもらうのがワークショップ。
- ◆気づきを行動におこす・・・社会の共有財産になっていく。土壌になっていく。→ワークショップ

- ◆そこで終わるのではなく、次の講座。
- ◆行動にうつるスタートにしていけるようなもの。

- ◆アイスブレイカーが次の本題につながっていないといけない。(自分なりに考えつなげておくことが必要)
- ◆モチベーションを上げるにはゲーム的なものを入れる。(講演のときも)

- ◆相手の尊重
- ◆守秘の注意・ルールづくり
- ◆個人的な主観でほめない。出てきたものをうけとめる。
- ◆意見を受けとめる。うなずく。見る。受けとめていると相手にわかることが大事。

*ファシリテーターは「社会の助産師さん」

参加者がもともと持っている経験、知恵、問題意識、発想、その場での気づき、といったものを引き出し、取り上げて形にしていく役割。

4. 「ワークショップ」実施のポイント

1) 準備のポイントー☆なにはさておきます仕込み！

- ① アクティビティの選択
対象者、参加人数に合ったアクティビティの選択
- ② 十分な計画と複数のオプション
突然のハプニングにも対応できるように、いくつかのオプションを持っておく。
- ③ 明確な指示
何を、どのように、どこまでやるのか、はっきりとわかるように指示する。
- ④ 時間配分
シェアやふりかえりに十分な時間を確保する

MEMO
◆ツールを多くもっておく

MEMO
◆キッチンタイマーなど便利

2) 内容のポイント

- ① Activity : 学習活動→問題の提起
- ② Discussion : 気づきの共有とふりかえり
- ③ Input : 様々な角度からの視点の提供、視野の拡大のための情報提供
- ④ Deepening : 深めるための調査、話し合い
- ⑤ Analysis : 社会と自分(達)の分析
- ⑥ Synthesis : 気づきを態度の変容や実際の行動へと高めるための統合

MEMO
◆客観的な情報を提供する

3) 行動のポイント

- ① ファシリテーターの行動
 - ・積極的な受容態度：参加者の話をよく聴き、発言を受け止める。
 - ・自分の行動(しぐさ、表情、視線、周辺言語[話の速度、声の高さ・抑揚、声量、発話中の間]など)が参加者に与える影響の意識
 - ・参加者の行動の予測と予想外の行動に対して冷静な対応
- ② 参加者の行動
 - ・参加、行動がしやすくなる工夫(例)メモ→ダイアッド→ディスカッション
 - ・無駄な時間、無駄な動きをできるだけ少なくする工夫

MEMO
◆まず、メモをとってもらおう
◆いきなりみんなて話をしないで、時間を決めて二人くらいから
◆その後ペアをわかれ、それぞれの意見を持ってもらいながら、ディスカッション

4) 配慮のポイント

- ① 心理的に傷ついたり傷つけたりすることのない安心な環境の設定
 - ・基本ルールの設定：「参加」「尊重」「守秘」「時間」など
- ② 快適に学べる物理的な環境の設定
- ③ 研修全体にポジティブな流れをつくること
- ④ 除外されていると感じる人を出さないこと
- ⑤ 参加者同士のネットワークの勧め

MEMO
◆言語によるコミュニケーション
◆非言語によるコミュニケーション
◆言語によるコミュニケーションは7%。周辺言語38%
◆相手を意識した時点で色んなコミュニケーションが起ってくる。
◆残り55%は、ノンバーバルコミュニケーション

5. より良い学びのために

1) 「あたりまえ」を見直す

① 大人の学習

それまでの知識や経験に照らし合わせながら新しいことを学ぶ。

② 脱常識

既に学んだこと、「常識」「前提」を捨てることで新しい学びが始まる。

MEMO

◆後だしジャンケン。→グループ分けもできる。

2) 多重知性理論 (ハワード・ガードナー)

① 言語的知性

② 論理・数学的知性

③ 音楽的知性

④ 空間的知性

⑤ 身体的・運動感覚的知性

⑥ 対人的知性

⑦ 内省的知性

⑧ 環境・博物学的知性

MEMO

◆学校では①言語的知識②論理・数学的知性の2つがほとんど

MEMO

◆⑨スピチュアル知性

3) 3つのモードに訴える

① 視覚モード

② 聴覚モード

③ 体感覚モード

MEMO

◆ワークでは意識する必要がある

◆ホワイトボードは左側におくことによって印象に残りやすい

◆楽しくやるだけでなく理論的な裏付けがある

◆+ 嗅覚と味覚がある

4) 効果的に学ぶための条件 (別紙参照)

自分自身の学びや、ファシリテーターとしての経験を通して、どのようにするのが効果的か、具体的な工夫を積み重ねていくことが重要。

5) 社会とのつながり

① 社会への関心

② 気づこうとする意識

③ 発見できる目

④ できることからの実践

MEMO

◆あえてそうしないと見えないものがある

6) 実践

① 実践からの気づきと学び

② フィードバック



③ 「学習への参加」から「社会への参加」へ

*ワークショップは「社会の共有財産」を共に造る工房

岩山さんには、「ワークショップ」と「ファシリテーター」（前項にレジюме掲載）のレクチャーのほか、アクティビティとして、体を動かしながら交流を深める自己紹介、ゲーム的要素のあるアクティビティ、クイズなど、本当にたくさんのアクティビティをおこなっていただきました。その中から少し“これいいよ！”を紹介します。


『シールで仲間分け』

◆準備物

- ・丸い色付きのシール（文房具店などで売っているドットのシール。直径 1.5cm くらいのも。白、赤、青、黄、緑など色々な色があります。これはグループ数によって色の数を増やすといった具合で・・・）
- ・その丸いシールに  （白の場合はW、緑ならG・・・）記号をいれます。

- ・グループ数が3なら3色のシールに記号を入れて準備します。

- ◆はじめのまえに、参加者にシールを見せないようにして、参加者の背中に1枚ずつシールをはります。（背中にはるので参加者には見えません）
- ◆そして言葉を使わずにそれぞれグループになってくださいと声をかけてグループにわかれてもらうというものです。
 - 言葉を使わずにどのように自分の色を知るか
 - 自分には見えないため、人の力を素直に借りなくてはなりません。また自分が力を貸してあげなくてはグループになることができません。誰かに他の人とくっつけてもらう。また人をくっつけてあげる。あなたの色はこの人のこの色ですと教えてあげることも有効かもしれません。様々な方法でグループに分かれてもらいます。

- ◆ここで岩山さんはもう一工夫。1枚だけ（このときは）  2色で塗ってあるシールを入れておきます。（シールA）

- ◆さて、グループ分けがはじまりました。
- ◆みんながグループに分かれていきます。
- ◆では、シールAの人はどうでしょう？

- ◆シールAの人はうまくグループに入れてもらうことができたでしょうか？

MEMO

- ◆内集団 ⇄ 外集団の関係
- ◆日本人 ⇄ 外国人
- ◆社会的アイデンティティの中で、一番変えられないものを強調されると（グループをつくられてしまうと）はじかれる人がでてくる。
- ◆社会はマジョリティ側に都合の良いようになっている。
- ◆マジョリティ側が気がついて動く必要がある。
- ◆100人以上になるとちがいに気付かない人も出てくるので形の異なるシールにするなど工夫する。
- ◆シールにアルファベットの記号を入れるのは、色の識別の難しい人もいるから。

- ◆コミュニケーションのスキル
- ◆ちがいをプラスにしていくことができる
- ◆リソースを出しあっていくことが大切
- ◆ちがいを見出す目が必要
- ◆SOSを出す必要がないようにすることが大事

後期：『参加型人権学習ファシリテーター養成講座』第4日目

「自分さがしとカウンセリング」

講師：水野 阿修羅 さん

後期第4日目。11月25日は水野阿修羅さんを講師に迎え講座を行ないました。水野さんには昨年ほっとねっとで開催したファシリテーター養成講座でお世話になった経緯があり、約1年ぶりにお会いすることとなりました。

昨年、一泊二日のワークショップを共にしているだけで「あー水野さん。どうですか最近」と二度目の出会いのなのですが、妙に馴染んでしまっている自分がありました。（これもワークショップの力なのでしょう……）

水野さん自身、DV 加害者の集まる会における活動を多くされているので、そのベースからのアクティビティーを数多く紹介していただいたのですが、ボディーワークをメインとしながらも全体をとおしてふんわりと癒される感じがありました。

これはファシリテーターの持つ雰囲気大きく起因するんだらうと思うのですが、一つひとつのワークの中で、水野さんが語る言葉、返す言葉ひとこと一言の中にやわらかさや優しさがあふれる「自分探しとカウンセリング」のワークショップとなりました。

はじめに、水野さんの自己紹介、メンズ・サポートの取り組みの紹介があり、その後、ワークショップに。今回のワークショップのアクティビティも水野さんの日頃の活動に関連したものでした。

MEMO

- ◆ファシリテーター。自分の考えを持ちこむ。多文化、ちがいを認めると言っているが、感情的な部分でそうっていない人もいる。
- ◆感情の扱いが大切。軽視すると知識のワークショップになってしまう。

◆人と仲良くする

『あいこジャンケン』

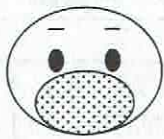
- ・二人ペアになって、ジャンケンをする。
 - ・“あいこ”になったらOK。次の人とジャンケンしていきます。
- とても簡単なものなのですが、“相手はきっこう思っているはず”と相手の気持ちを探ろうとするとところがあって楽しめます。アイスブレイキングには使い易いものだと思います。

MEMO

- ◆気が合わないということではなく、人と合わせるのが難しい。
- ◆“勝ち負け”がないのが良いという人と、“勝ち負け”があるほうが良いという人がいる。
- ◆“競争のない楽しさ”“競争の楽しさ”両方知っている方がいい。“競争の楽しさ”のみの場合、勝ったときはいいが、負けたときは悲惨。失敗したときにどうしていいのかわからない。“失敗してもいいよ”という実体験をもっている事が大事。
- ◆“仲良くしよう”ということは知っているが、“仲良くする方法を知らない”。
- ◆自分の弱さを認めて人と仲良くする。
- ◆今は、勉強だけが勝ち基準。ひきこもって失敗を受け入れられない。親のせいにする。自分が死ぬ。動物にむかう。……

『かおジャンケン』

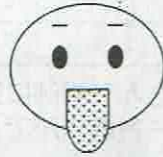
・手を使ったジャンケンではなく、顔でジャンケンします。



(パー)



(グー)



(チョキ)

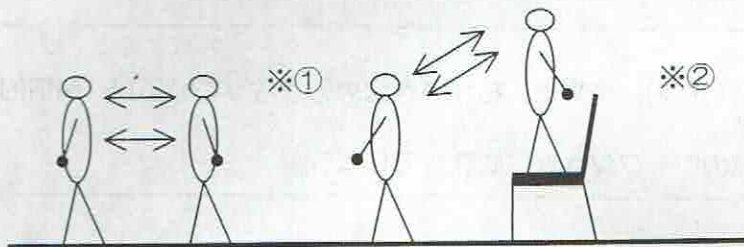
- パーは口を大きく開けます。
- グーはくちをしっかりと閉めます。
- チョキは舌を出します。

MEMO

- ◆手しか見なかったのが、顔を見ておこなう。
- ◆日本人は顔を見て話をするのが苦手。
- ◆日本の遊びの中にあつた“にらめっこ”・・・人の顔を見る練習。負けても悔しくない。
- ◆大人が楽しそうじゃない。
- ◆自己主張して仲が良いい見本がない。

『 』(ワークの名前はありません)

- ・二人一組で自己紹介と世間話をします。・・・※①
- ・次に、一人が椅子の上に立ちます。そして世間話をします。・・・※②



MEMO

- ◆アメリカの DV 加害者の人のためのワーク。・・・女性を見上げるときに抵抗感がある人が多い。男性の方がえらいと思う人がいる。
- ◆上からものを言う。下からものを言う。年功序列がしみついている。
- ◆ワークをとおして自分にどんな感情が生まれるか。
- ◆いやな感情も吐き出さないといけない。

レクチャー『笑いと涙』

MEMO

- ◆最近のテレビ番組・・・人をいじめて笑っている。いじめることで笑う。
- ◆自然に笑うことが少ない。人が失敗したときに笑う。
- ◆涙が出るのは感情が豊か。いつから泣かなくなったか。何で泣かないのか。
- ◆うつの方は心に蓋をしてしまって泣けない。

「いつから泣かなくなったか。何故か。」をみんなで自分を振り返り意見を出し合いました。

- ◆泣かない人。泣けない人が自殺するのは。溜まったストレスが人に出るか自分に出るか。
- ◆“男の子はなくな”・・・弱みを見せない。
- ◆自立の強い国は発展する。人間関係がクール。資本主義が発展する。
- ◆自分のストレスのはけ口を持っていないといけない。

「自殺とジェンダー」(水野阿修羅さんレジュメより)

自殺者数 1998年 3万1755人 交通自事故の2倍 死因別では6位

年齢別の自殺の内訳(2000年)

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	不詳	合計
男	420	2295	2728	3796	6454	6759	275	22727
女	178	1006	957	1022	1791	4238	38	9230
計	598	3301	3685	4818	8245	10997	313	31957

表は「医療者が知っておきたい自殺のリスクマネジメント」高橋祥友 医学書院より

	男	女
日本	25	1
欧米	3～4	1
中国	女性の方が高い	

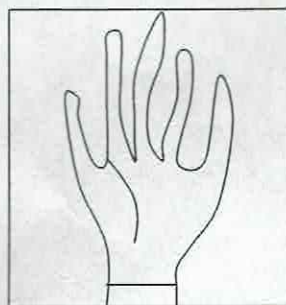
秋田県 自殺率日本1 65才以上が多い(男性の3割・女性の5割)

「自殺」朝日新聞秋田支局

- ・「お年寄りが働くこと以外に生きがいを見出せない場合、同居家族や親しい友人がいても心理的に孤立しやすい」
- ・「沖縄県は65歳以上の自殺率が全国で最も低い」
- ・「高齢者のあいさつ「働いているか」「頑張っているか」

65才以上の人口は全体の17%(2,000年) 自殺者中25%

女性でも、医師、看護師といった専門職、管理職、研究職などについている女性の自殺率は専業主婦と比べるととても高い。



『じぶんの手』・・・自分の手をスケッチする。

- ◆自分のことを話するのは難しいけれど、手のことなら話しやすい。コピー用紙を準備し、自分の手を見つめながら静かにスケッチします。その後、参加者全員が輪になって座り、スケッチをみんなに見せながら、手の話しやどう思ったかを出し合います。
- ◆自分を振り返り、他の人の話を聴く。

『肩もみ』・・・ボディーワーク

- ◆二人一組になって、交代で双方の肩を揉みます。
 - ① 何も互いに話することなく無言でおこなう(50秒づつ)
 - ② 二人とも声を掛け合いながらおこなう(1分10秒づつ)
 (時間はふせておき、終了後ファシリテーターから時間差を言います)
- ◆それぞれ、感想を出し合います。
- ◆言わなきゃわからないんだというワーク。
- ◆ものいわぬ小さな子ども・・・察する力がなければ、人を思いやる力を奪う。

① 問題をかかえる男性に共通する課題

《男らしさ》——建前

- ・男は強くあらねばならない——弱音をはかない。泣かない
- ・自分で問題を解決しなければならない——人に頼らない

↓
・自分の本音（弱さ・感情）を封印する

↓
・本音（感情）がわからなくなる（喜・哀・楽の喪失）

↓
・怒りだけは男が表してもよい感情 →暴力
——怒りもあらわせない男性が一番しんどい

② グループワークのめざすもの

・本音（感情）に気付く 論理的にあらねばとか、冷静であらねば
と考える男性はこれが一番難しい

↓
・気持ちを言葉にする →暴力的な言葉になる人が多い

↓
・言葉の暴力をなくす

↓
・わかっているけど、できない。 →練習する

③ グループの力（いろんな人がいることの魅力）

- ・人の話を聞く練習
- ・自分の気持ちを他人に語る練習

ファシリテーターの役割

ファシリテーター（促進役）はそのことば通り、練習を促がす係
やたらにコメントしたり、指導したりしない。アドバイスはする

後期：『参加型人権学習ファシリテーター養成講座』第5日目

「新しい人権論」

講師：伊田 広行 さん

後期「参加型人権学習ファシリテーター養成講座」最終日の講師は伊田広行さん。「新しい人権論」というテーマで、レクチャーとともにワークショップを交え、講座最終日を締めくくっていただきました。今回も小人数の参加となり、まさに伊田さんのゼミ状態。日頃から大学生との交流もともなうか本当に親しみやすいざっくばらんな講座となりました。

充実したレジュメをご用意頂いたこともあり、今回はすべて以下掲載したいと思います。もちろんワークシート付きです。

新しい人権論：自分の生き方をちゃんとしたものにする

イダヒロユキ

1 これまでの人権論

いいところもあったが・・・たてまえ
きれいごと → 利権
一人一人の民度？

今の社会 殺伐とした社会

経済・政治 累積赤字 保守化する政治 監視国家・戦争への道
税・年金・介護など将来不安 格差拡大
家族・地域関係 非婚 少子高齢化 離婚 関係希薄化
価値観 殺伐とした空気
きれいごと 連帯などへの嫌悪感・揶揄 お涙頂戴
ホリエモン的なもの 新自由主義の流れ 何でもカネ
芸能人が豪華な生活、結婚式、おかしい 恥の感覚がない

良心派・民主派・合理主義の問題・・・保守主義の変形に過ぎない

正義・善 権利 愛 本質 科学
啓蒙主義 パターナリズム 保護 指導

何かに乗遅れていないかという強迫観念、自分中心主義、人や生き物に対する敬意や感謝の心が薄くなる、周りの人が競争相手・敵に見える、立ち止まって内なる声を聴く余裕がない

→ そんな中で、自分はどうか → 「スローでピース」

2 新しい人権論：エンパワメント視点

参加型教育の意味するところ

自由の実践・・・注入型ではなく
考え方 先生自身がいきいきとしている 弱さも失敗も認める
考えさせる、見守る、当事者は誰か 問題を取らない、
非暴力、ピース、情念を伝える
民主主義の感覚、自立、自尊心、どうするかを自分で考える乗り越えた体験

エンパワメント論

囚われ 強者中心の秩序、能力主義、普通志向というものへの気づき
それに対して、批判的になる
それに変わる自分のなかの大事な価値観、〈たましい〉に出会って自分らしく生きる

間違った教育の例 ひどいかかわり方

- A がちがちルール・強制・命令型 . . . 管理レンガ型
「親や教師が正しいことを知っており、それに従いなさい」
B ネグレクト・放任・放置・無関心・いいなり型 . . . クラゲ型

Q → 具体的にはどんなのがありますか？

→ その結果

Q どんな子になる？

自尊感情、セルフエスティームとは、「自分自身のいいところも悪いところもひっくるめて受け止め、それでも全体として私はいいい人だ（ちゃんと生きている、貢献できる）と自分を大切にす気持ち」

現状：非「自尊感情」 非エンパワメント（私=OKでない）
. 非スロー、非ピース、非スピリチュアル
現象 囚われ 強者中心の秩序、能力主義、普通志向というものへの気づき

典型：ジェンダーに囚われている状況 : ジェンダーとは
女らしく 男らしく 女なんだから 男なんだから
妻だから 夫だから 母親なんだから 嫁らしく
いいお母さんでなくては 女の子（男）らしくしなさい

いつも「らしく」あるべきでしょうか

結果：力を奪われている、自分がきらい、自分なんて、自信なし
マイナスのエネルギー（不満）が自分と他者に暴力として向かう
（自己中心意識：エゴの肥大化：私だけOK）

他者に向かう：

自分に向かう：

対処：自尊感情のある状況（エンパワメント）をめざそう

自分らしくあるとはどういうこと？

「あなたらしさ」とは？

→ Q どんな関わりがいるのか？

ボールに空気（自己肯定感）を入れる

「そのままでもいいんだよ」「いいところがあるね」「愛しているよ」
こちらの態度、表情、声
教育、育てる、しつけるとは？

手順

A 自分の囚われ（主流秩序の内面化）に深いレベルで気づく → シート

深く考える時間 自分の内面をみつめる時間

B 今の社会の主流秩序（偏差値発想）から離脱するために、社会（主流価値観、常識）への批判的視点の獲得

外部にたって全体構造を見る

恋愛・家族内役割・性役割・関係の距離感の当然視（事実上の強制）から離れる

（家族単位発想からの離脱）

→ シングル単位感覚をもつ

エリート、勝ち組、囚われのしんどさを見る。ダメさを見る → 必要ないや

それがなくても生きていける、ということを知る

「だれがきめたの、そんなこと」

→ シート

C 自分の中の〈たましい〉に気づく

自分の〈たましい〉＝「自分は何をしたいのか」、中心軸？

深く考える時間 自分の内面をみつめる時間

奥底にある生きる道理＝悔いなく生きるときに大事なものを、を見つける、それに至る

あるがまま、喪失や弱さ・だめさ を大事にする

脱比較

→ 自分のなかの深いところの財産（力）を知る。自尊感情の高い人になる

私が本当に求めているもの、本当に大事にしたいもの、そういうことを思える私

D つながりの中での自尊感情 ……外の〈たましい〉へのきつき

人からつながってもらえた喜び

不安が減る 支配しなくてもよい 媚びなくてもよい それでも仲がいい関係

心を込めた会話 ……役割でない愛情・つながり・会話

否定や命令でなく、感謝や共感や信頼

コミュニティ（ネットワーク、仲間）の重要性

…… 肯定してもらえる空間、ロールモデル

すばらしい人を知る

すばらしい本、映画、活動をしている人、それをいいと思える私

C・Dから → 自分の価値観とビジョンを明らかにする → シート

孤独に対して

「所有・所属による安心」から

自立、一人が基本 その上で

大きな友情へ・ボランティア的な家族を超えたつながりへ

見落としていた楽しみや生きがいを見出す力

つまり適切な孤独、 苦しくない孤独

問題解決能力を身につけること

「気持ちを表現できるようにする」・・・傾聴（受容的、共感的）してもらえる環境を整える

「人の力を借りてもいいのだ」と知ること。

相手も無理なときは無理ですといえただけ。

正直なかかわりあい方

「行動の選択肢」をもつ 選択肢がないと思い込んでいる状況からの脱出

肯定的な物事のとらえ方・受け止め方

自分に対してまっすぐであること（自分に真実である）

自分の成長という視点

悔しい気持ち（なにくそ）

自分の人生の主人公は私（人生に意味を付与するのは私だけ）

.....

ワーク あなたにとって、自分が自尊感情を持つ上で、大切な要素はどんなこと？

3 新しい人権論 :スピリチュアリティ、ピース

ワーク・ライフ・バランス 人生 100 のリスト
ビデオを見て、自分の人生を考える

それだけでいいのかな？

物質主義 お金、リッチ 金持ちと結婚・・・買いたい欲望

キレイになりたい系 こんな人間になりたい系 性格、体力

すぐできるものも多いかも：→ やってしまおう

将来（大人になったら）

労働時間が、週 40 時間以上というのは、どういうことか？

会社人間、家事育児だけでいいのかという「問い」

家事は？ 子育ては？ 勉強時間は？ 読書、趣味？

長期目標に、スピリチュアリティがない。人生のスピリチュアルな時間をどうするのか？

人に触れる、大事にするもの、自分らしさ、

本当にこれでいいのか、私はちゃんと生きているのか。

「自分のスピリチュアルな成長」という課題はどうなっているのか。

ワーク・ライフ・バランスのスピリチュアルな意味

今日、一日、これをやった、といえるような 1 日であれ

いつ何があるかわからない、だから ホントにやりたいことは直ちに全力でやれ

生きているだけでいい。昼寝をできるだけでいい。日向ぼっこでいい。

歩いて、餌を見つけて、食べるだけでいい。自然・世界の不思議、いのちのすばらしさ。

自分のための時間：自己成長、自分の体にいいこと、精神的安定、趣味

親しい人との時間：パートナー、恋人、子ども、親、友人

他者援助・ボランティア：世界(社会、地域、他者、自然環境)をよくするための時間

ビデオ 僕と彼女と彼女の生きる道

消費へのとらわれ

佐藤はつめ

「ビューティーコロシウム」に表れている、ひどさ

『声をあげて世界を変えよう』（カナダ・番組）

「弱きもの」から学ぶという視点

教育に適用するとすれば、「弱者」救済ではなく、社会で周辺化されたものの立場に立つことの“豊かさ”に注目する教育がなされるべき

弱肉強食社会で、ひどい人間にならずに生きていける力

「劣等感、他人を見下す優越感、非連帯、肥大化した自己万能感、エゴイズム感情、自由を重視せず、安定だけを求める生き方」に対抗的

オランダでのイエナプラン教育：ペーター・ペーターセン

「親切で、友好的で、互いに尊重する心を持ち、人を助ける心構えができており、自分に与えられた課題を一生懸命やろうとする意志を持ち、人の犠牲になる覚悟があり、真摯で嘘がなく、自己人々で中心的でない人びと」、そういう人びとがいれば、困難な社会問題も解決されていくだろうと。

エリートでないものたちのリアルな自立論

働くことは生きていくための手段

「それだけがすべてではない」「手段は手段に過ぎない」

具体的には、短時間はいやな仕事も我慢、それ以外の時間を楽しむ

主流秩序から離れた働き方・生き方の紹介

対処能力 法律、組合

資料

ゲシュタルトの祈り あなたはあなた 私は私

「ゲシュタルトの祈り」

わたしはわたし。あなたはあなた。

わたしはわたしのことをやり、あなたはあなたのことをやる。

わたしはあなたの期待に応えるためにこの世に生きているわけではない。

あなたはわたしの期待に応えるためにこの世に生きているわけではない。

あなたはあなた。わたしはわたし。

もし、二人が出会えばそれはすばらしいこと。

出会わなければ、それはそれでしかたがないこと。

男女2分法から多様な性へ

自分の性の多数派性を解体する

「他者に対して=権力性 自分に対して=自分の自由・抑圧」をみなおすこと

自分の女・男ジェンダーを解体

性のあり方は、生のありかた

ワーク・ライフ・バランス

男性の解放 メンズリブ 非暴力 反DV

これからどうする

シングル単位

スピリチュアリティって？

- 1 知性、身体、精神、+たましい トータルに考える
- 2 つながり 世界、他者、過去、未来 : 拡張する私
- 3 生きる意味 実存 その人の心のなかの本当にしたいこと
- 4 近代合理主義の枠を超える (ポストモダン、ホリスティック)
- 5 生の有限性、死(ときには宗教)

レベル：深いところ みえにくい、エリートに見えない領域

きれいなところ 高み、広さ、深さ

濃い時間

その人の心の叫び、その人が話していないもの (みえないもの、身体、行動、表情)

「その人の生に意味をもたらすもの」「目に見えない、その人にとって大切なもの」が大事にされることがスピリチュアル

ピースって？

ティク・ナット・ハン『仏の教え ピーイング・ピース』中公文庫から学ぶ

「弱さ」の大事さ

「弱さ」の大事さ 喪失した人、撒けた人、傷ついた人、そういう人がスピリチュアルな領域に目が向く。そういう人が行くと、伝わる。そういう人が自分のきずに気づき、それを抱えながら他者に関わることで、他者も自分も癒されていく。

「その打たれし傷によりて、我らは癒されたり」 小さきもの 本田神父

こころを解放することは、傷つきやすくなることであるが、それは人間であることの重要な特徴

ティク・ナット・ハン『ピーイングピース』

息を吐き、微笑む

未来でなく、現在、この瞬間を生きることが私たちの務め

悲しみにむかって、微笑むことができる

静かさで正気を保ち、することのよしあしをわきまえる

表情、声の調子で皆に伝える

椋の木のようにただ存在するだけでいい 教えようとするな

肉や酒を食べるとき、毎日4万人の子どもたちが飢えて死んでいること、肉や酒のために多くの穀物が使われていることをはっきりと理解することが大事。

毎日、平和にかかわること——生活様式、消費の仕方、ものの見方——をしなくてはならない

森は地球の肺であるがそれを破壊している。小さな自己の便利さにとらわれて、大きな自己を破壊している。太陽は私の（体の外にある）心臓、私は山になり川になり、ソ連の市民になる能力を持つこと。これが非対立的なものの方

双方とつながりを持ち、それぞれの苦しみを理解して反対側に伝えなければならない

政府、政治家が自由にしているのではない。国民一人一人の日常の生き方、ものの飲み方、何を食べるか、にかかっている。状況を変革することは心を変革すること、目覚めること、これが、行動する仏教の真の意味

自らの欠点を言うこと、弱点をさらけ出すこと。それは相手の感情をよくする。それが相手も同じ程度の告白をすることになる。沈静化がすすむ

攻撃批判だけでは、相手の心を閉ざす。平和運動にかかわることは、自分が平和的に生きること 平和を生きること

だれに対しても、権威、脅かし、金銭、宣伝、教育によってあなたの見解を強制的に受け入れさせてはいけない。自愛に満ちた対話によって、ほかの人が、狂信と狭い見解をすてるようにしていくこと。

苦しみとつながることを避けてはいけない。世界に苦しみがあることをはっきりとしり、直接的に実感しろ。

世界の人が飢えている状況のなかにあって、富を蓄えてはならない。名声、利益、官能の楽しみを人生の目的としてはならない。簡素に生きて、消費を減らし、時間、エネルギー、物質的資源を困っている人たちに分かちなさい。現代社会の大部分の焦燥に対抗するのは、質素に幸せに生きること。

怒りと悲しみを持ち続けてはならない。怒りと悲しみが起こったらすぐに慈愛についての瞑想をおこないなさい。いきとしいけるものを、慈愛の目で見ることを学びなさい。

個人的利益のために、分裂をもたらすこと、真実でないことをいってはならない。はっきり知らずに批判、批評するな。真実に従って（相互理解と相互受容をもたらすよう）建設的に話しなさい。自らの安全が脅かされそうとも、不正義をちゃんと批判しなさい。

人間と自然を傷つける職業についてはならない

具体化 「働かないってワクワクしない？」

アーニー・ゼリンスキー[2003]『働かないってワクワクしない？』（VOICE）

（Joy of Not Working, 2001）

失業をきっかけに、仕事と自由時間、創造性についてのコンサルタントになった人で、1日4-5時間、週4日働き、5、6、7、8月には仕事をしないことにしている人

組織（職場）がきらいな理由

現代社会が定めた人生の主な目的は、労働の報酬であるお金を使ってモノを買うということ。そのために「働く」ということ自体に疑問を投げかける。

「勤勉に働く」というのは「いいこと」、「働かないことは悪いこと」って本当？

奴隷的な仕事をやめるといふ行動を起こすことが大切

「使命」という概念で、生き方や仕事についての優先順位を考える

「自由時間」のあるバランスのある生活

受身的な全員の過ごし方ではなく、のんびりできるクリエイティブな時間のある、能動的なスロー生活、ダウンシフトした生活

自分の内面に向かう時間、沈黙の時間の大事さがわかっていない人は、何か時間を埋めるものがないと不安になり、「外の世界」に逃避する

一番一番を生きるスタイル（「深く関わる」、「完全に没頭する」）などの積極性を提唱

何かをしながら、頭では別のことを考えているということはよくある。つまり、私たちはほとんど、

「今この瞬間を生きていない」

少ない時間動いて少ない消費で楽しくちゃんと生きる

「成功とは？」 ラルフ・ワルド・エマーソン

よく笑い、たくさん愛すること / 聡明な人々の尊敬と子どもたちの親愛を得ること /

正義な批評家に認められ、偽りの友人の裏切りに耐えること / 美を賞賛すること /

他人の中心に居るものを見つけること / 見返りのことなど一切考えずに自分を献身的に捧げること /

健康な子ども、教わられた魂、美しい庭、改善された社会状況を通して、世界をほんの少しよくすること / 熱心に遊んで笑い、思い切り歌うこと / あなたが生きているおかげでたった一人でも認められた人がいると知っていること /

これが成功するということだ

これが成功するということだ

『美と彼女と彼女の歩く道』をみながら、スピリチュアルなあり方を考える

一緒に遊ぶ 旅行 一緒に雪だるまつくり 逆上がりの練習 一緒に隠されたカバンを探す その

時間が大事 身体を使う そばにいる 非難せずに 学校行けるようになるまで待つから。

ゆらゆらと一歩にいたいんだ。 お土産は、雪だるま

愛されていると感じてほしい 一分一秒でも

自分を愛するということ 会社人生のむなしさ 父親

大事な気持ち 押し付けがましくない いい関係 シングル単位的

参考

レポート・カリス『働くおれい』岩波社、2001年

『人生の100のリスト』講談社、2004年

杉田あゆみ『美の生きる道』角川文庫 2003年1月放送

『美と彼女と彼女の生きる道』角川書店 2004年1月放送

杉田あゆみ『こころの道』角川文庫

伊田広行『スピリチュアル・シングル宣言』明石書店

高田ゆり『子どもと暴力』岩波書店、『多様性トレーニングガイド』解放出版社

ワークシート

自尊感情がない (例：自分が嫌い 醜いと思ってた バカだ、愛されない、価値がない、心が傷ついてた 力がないと感じていた、自分のいやなところ、嫌いなどころ)

[Empty box for writing]

エリート、勝ち組、囚われのしんどさを見る。ダメさを見る

例：エリートは、忙しいのでダメだ。

[Empty box for writing]

自尊感情がある (私は、こんないいところ/好きなどころをもっている)

私のいいところは.....

[Empty box for writing]

自分のしたいこと(できるようになりたいこと、人生の目標・夢、そのために私は・・をしていく、
〇〇な私になっていく)

[Empty box for writing]

「私が人生でしたいこと、100のリスト」

2006年12月段階

1	26	51	76
2	27	52	77
3	28	53	78
4	29	54	79
5	30	55	80
6	31	56	81
7	32	57	82
8	33	58	83
9	34	59	84
10	35	60	85
11	36	61	86
12	37	62	87
13	38	63	88
14	39	64	89
15	40	65	90
16	41	66	91
17	42	67	92
18	43	68	93
19	44	69	94
20	45	70	95
21	46	71	96
22	47	72	97
23	48	73	98
24	49	74	99
25	50	75	100

このリストについて、今、10年後の自分に言っておきたいこと

私のワーク・ライフ・バランス 書いたときの年月日 2006年12月 日

名前

	現状 かけている時間	希望 かける時間	長期目標 10年先 時間
仕事、お金関係			
自分のための時間 自己成長 自分の体にいいこと 精神的安定 趣味			
親しい人との時間 パートナー、恋人 子ども 親 友人			
他者援助・ボラン ティア 世界(社会、地域、他 者、自然環境)をよく するための時間			
その他 家事など 睡眠 食事、トイレ、着替え、 出かける準備、風呂、 移動等			

長期目標

あなたが、人生で大事にしていきたいことは何ですか？

40代ごろ、人生の目標を再設定するとして、どのような夢がありますか？

60歳以降、どのようなことをしたいですか。

死ぬまでに、「人生100のリスト」のどれぐらいができていますか？

● 「現在の私」が、「20年後の私（未来の私）」に次のように問いかけます。その返答を「未来の私」になって書いてみてください。

● あなたの一番大切な人との関係はどうなっていますか。 _____

● あなたが一番やりがいがあった仕事は何でしたか。 _____

● あなたが家族や友人または社会に貢献したことは何でしたか。 _____

● あなたが自分自身について、一番誇りに思うことはなんですか。 _____

● 「現在の私」に欠けているものは何ですか。 _____

● 「現在の私」がバランスのとれた充実した人生を送るために、すべきことは何ですか。 _____

ワーク・ライフ・バランスの表を書いて気づいたこと／おもったことを5つ以上書いてください

1)

2)

3)

4)

5)

「ぶらっと・無駄話の効用」

講師：宝田 裕士さん/幸田 英二さん

「2006人権啓発・教育コーディネーター養成講座」は、年末の宿泊研修をもって全日程を終了しました。同研修は12月22日～23日の日程で、奈良市畑中の佐保人権文化センターをメイン会場に行ないました。(メイン会場となっているのは、センターでの研修会のほか、昼食や夕食、またそれに向かう道中での無駄話もすべて学びの場であると考えているから・・・)

第1日目の12月22日。講師は宝田裕士さん。宝田さんは奈良市内で小学校の先生をしながら、授業や保護者を対象とした懇談会。また地域の地区別懇談会などで参加型学習を取り入れ人権学習をすすめています。そういった意味から本当にローカルな現場、身近なところでの参加型人権学習について学ぶところが多くありました。

ワークショップ(以下WS)もスタンダードな流れ?に沿って本当に馴染みやすいものばかり。またウラネタも含め、ゆったりとした研修だからこそ聞ける、話してもらえることもたくさんあって、様々な仕掛けのなかにある宝田さんのやさしさが十分に伝わってきました。最終的には「12歳の宝物」というWSでみんなでカベ新聞をつくりました。

その後は、「ぶらっと・無駄話の効用」という交流研修会。前述のとおり懇親会も大事な研修会。「あーだ」「こーだ」の世間話、無駄話の中にいろんな思いや、大切なキーワードがあるんだろうなと思ったりしています。

こちらの研修会から、2日目の講師をお願いした幸田英二さんが合流してくれました。参加者同士、また講師(ここでは同じ参加者です。WSもそうか・・・?)がともに膝を突き合わせ、食事とともに語り合う。普段のWSとはまた違ったそれは深～い。研修会となりました。

明けて2日目。幸田英二さんが講師です。この日は「2006人権啓発・教育コーディネーター養成講座」の最終日という位置付けもあり、「教材づくり」を是非とお願いしました。

実際のところ短時間に凝縮というかたちとなっているため、忙しさはありましたが“おっ”“おっ”となんとかそれぞれが持っている課題を題材として、WSの大枠をつくることができました。十分に時間があればそれぞれグループからアクティビティを紹介・披露してもらい、完成に向けて煮詰め、ともに練り上げる作業となります。

短時間でしたが「あ～それいいやん」「あーこうしたらどお?」と思うところがあり、「こーやったら作れる!」という学びが大きくありました。

幸田さんについては様々な講座で色々とお名前を拝見することが多かったのですが、実際にWSを体験したのは今回がはじめて。今回の講座の核となる教材づくりの他、全体を通して色々なところで経験を積み重ね、試行錯誤しながら幸田さんのWSができあがっているんやあ～と感じました。

まずは、宿泊研修の第1目の宝田裕土さんの講座から。

MEMO

- ◆いつもワークショップをする部屋にCDデッキを持ちこんで、音楽を流している。
- ◆歌詞の入っていない音楽。
- ◆クラシックは力を持っているので流さない。知っている音楽は流さない。
- ◆始まる前、休憩時間に流す。まず、部屋に入ってきたときの空気を変える。

< 講座のメニュー >

(はじめに)	(なか)	(おわり)
・まえせつ ・どん ・ナポレオンのいす ・かべにタッチ ・つながって探検	・12才のたからもの	・ふりかえり

MEMO

- ◆必ず講座のメニューを書く。
- ◆参加者との契約。約束してからスタートする。

『どん』

- ◆まず、二人一組になってジャンケンをします。
- ◆ジャンケンをして勝った人が前、負けた人が後ろになってつながります(肩をもってつながる)
- ◆そのまま合図があるまで部屋の中をウロウロと動き回ります。そのとき他のペアとすれ違う際肩と肩をすり合わせます(“どん” っと)。つながっている人すべてとすり合わせます。
- ◆そして合図でストップ。最後にすれ違った、接触したチームとジャンケンをします。(ジャンケン列車です。)
- ◆そして負けたチームが勝ったチームのうしろにまたつながります。これを繰り返していきます。
- ◆最後には一列につながります。

『ナポレオンのいす』

- ◆『どん』で一列になったそのままの状態からサークルを作ります。先頭の人が最後尾の人にちながります。
- ◆サークルができれば、サークルの内側につめて、人と人の間隔を狭めます。
- ◆そして、号令をかけ、それぞれがいすになります。
- ◆自分が前の人のいすになり、後ろの人が自分のいすになります。
- ◆多少こわれないかとドキドキしますが、全員が座れます。内側に少しでも重心を持っていくのがコツのようです。
- ◆そして合図で、全員がタイミングを合わせながら立ちあがります。

『かべにタッチ』

- ◆二人一組になり、先ほどと同じように前後つながります。(後ろの人が前の人の肩を持ちます)
- ◆ファシリテーターから4箇所ほど部屋の中でポイントを示します。
- ◆そして、まえの人は目をとじます。そして手を前に。後ろの人が声をかけ歩き出します。
- ◆部屋の中の障害物に気をつけ、後ろの人が声をかけながら、示されたポイントに前の人を誘導します。ポイントについたら前の人がポイントにタッチします。
- ◆どのように声をかけたらいいか。どのようにしたら前の人が不安をもたないか。

『つながって探検』

- ◆今度は二人一組ではなくもっと長い列です。参加者で一列になります。先ほどと同じように、前の人の肩を持ってつながります。
- ◆そして、サポーターを一人決めます。サポーターは列から離れます。
- ◆列にいる最後尾の人とサポーターのみ目をあげ、その他の人は目を閉じます。
- ◆部屋にイスなどで障害物を作ります。
- ◆その障害物に当たらないようにイスとイスの間を通りぬけられるよう、最後尾の人、サポーターが声をかけながら、列全体をゴールへ導きます。

「先頭の〇〇さんちょっと右です」「そこでストップ」

「△△さん二歩左です」

「□□さん右」「もうちょっと」

「そのまままっすぐ」

「ストップ」

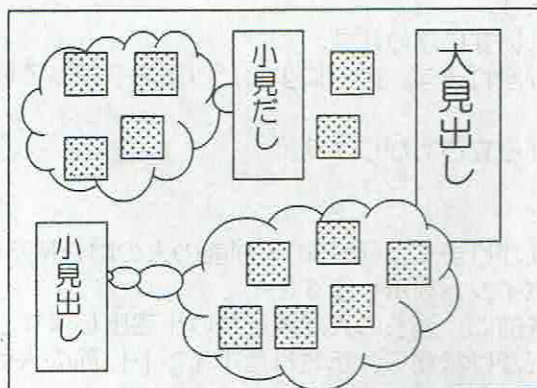
- ◆列が長くなる場合は、最後尾の人の他に、列の中に何人が目をあける人を作ります。

続いて、『12才のたからもの』というワークショップに！

- ◆列の状態でするのでそのままグループわけもしやすくなります。

『12才のたからもの』

- ◆四人一組のグループになりました。
- ◆それぞれに5枚のカードを配ります。(名刺サイズのカードです)
- ◆そのカードに「12才の子どもに持ってほしい力」を個人作業で記入していきます。
- ◆それぞれのカードを集めシャッフルします。そしてそのカードを一人に3枚ずつ配っていき、残りをテーブルの真ん中に。
- ◆順番にカードの山から1枚引いて、いらぬものを1枚返します。それを2~3回くり返し手元に残っているカードのみにします。他のカードはファシリテーターが撤収します。
- ◆その手持ちのカード。何故自分がそのカードを残したのかをグループで出し合います。
- ◆そのグループに残っているカードを集め、グループで『12才のたからもの』という壁新聞をつくります。(模造紙とマジックを使います)



※“こんな会社に”“こんな学校だったらいいな”という、いろんなテーマ設定でできるとおもいます。

宿泊研修の第2目の幸田英二さんの講座から。「人権ワークショップ進行：基本パターン」については、ワークショップをすすめる上で、参考になるとおもいますので掲載しました。

MEMO

- ◆講座をすすめる上でテクニックや技能は必要だが重視していない
- ◆差別は社会問題
- ◆語り合う人との姿勢が大事
- ◆社会分析、理論構成が必要
- ◆自分の人権から教材をつくる
- ◆人権教材をつくりやっていくことが大事
- ◆知識は行動も含めた概念

人権ワークショップ進行：基本パターン

(1) 学習促進役の自己紹介

- ① お互いに話しあう場合、まず、自分から自己紹介します。着飾ったりせずに、素直に表現することが大切です。
- ② 自分のことを知ってもらったら、参加者に興味を持つことを心がけます。
- ③ 参加者を「応援したい！」と念じます。
- ④ その熱意が、参加者に安心感と信頼感を与えることになります。

(2) 学習の流れについての説明

- ① 各カリキュラムの「学習の目的」説明
 - ・人権学習を実施する側が、最も大切にしなければならない配慮は、参加者同士が「安心して語りあう」という雰囲気をつくり出すことです。そのためには、講座の流れを説明しておくことが必ず必要です。
- ② 人権教育の4領域の説明



①自尊感情②コミュニケーション③科学的知識教育④人権救済・社会変革

【人権教育の4領域】

- ① 気付きのワークショップ：自己尊重+非攻撃的自己主張
 - * 安全、自己認知、自信（自己尊重）
 - * 他者理解、受容
 - * 感情表出（自己主張）
- ② 共同体創出のワークショップ：仲間づくり、コミュニケーション教育
 - * 矛盾：葛藤、差別、暴力を克服するための人権教育
 - * 解決：協働的対話による矛盾の解決をめざす疑似体験
 - * 行動：自他信頼（共同体感覚）に基づく行動変容
- ③ 科学的合理的知識を獲得する人権教育
 - * 差別は、偏見や伝聞・風耳、思い込みなどで生じる場合が多い
 - * 偏見を越えるには、接触仮説と「正しい知識」を獲得するしか方法がない
- ④ 平和・人権・環境を築くためのワークショップ
 - * 仲間の獲得
 - * 人権侵害防止のスキル
 - * 社会変革への主体的参加のスキル

(3) グループ編成

- ① 人権教材によって2～6人で編成（通常は、4～5人が多い）。
- ② 前後左右でグループを組む方法。
- ③ 参加者が順番に番号を呼称して、同じ番号同士でグループになる。
 - ・30人の参加で5人グループを6組つくりたい場合（ $30 \div 6 = 5$ ）
 - ・先頭から「1, 2, 3, 4, 5,」と呼称し、6番の人から「1, 2, 3, 4, 5,」と繰り返して、最後まで一巡する。
 - ・同じ番号を呼称したものが、グループになる。
- ④ ゲーム感覚でグループを組む方法
 - ・「誕生日（月日）順」に並んで、先頭からグループになっていく
 - ・名前「あいうえお順」に並んで、先頭からグループになっていく
- ⑤ クジでグループを決める方法など
- ⑥ 参加者とおしで決定してもらう方法

(4) グループ討議のルールを紹介《自己紹介用：簡略版》

- ① 発表者の意見は、うなずきながら聴きあう。
- ② 途中で発表者の意見をさえぎらない。
- ③ 秘密は厳守。
 - ・自己紹介用は、省略しても可能。(6)は説明する。

(5) グループごとの自己紹介（アイス・ブレイキング兼用）

- ① 素直に人の顔を見る（にらまない）。 ← 人に関心を持つ
- ② あいさつをする（できれば笑顔で握手）。
- ③ 無駄話も大切な話もする（失敗談も）。
- ④ ドキドキしたら深呼吸（自信と安定）。
- ⑤ 素直に、ありがとう、ごめんなさい。
- ⑥ おつかれさまの気持ちを伝える（拍手か握手を）。

(6) グループ討議のルールの確認《本教材用》

- ① 人の話は最後まで聴く（丸ごと飲み込む）。
- ② 一般論は言わない（だいたい、みんな・・・）。
- ③ 人の話を否定しない（なぜこんな意見になる？ と好奇心）。
- ④ 「私メッセージ」で話す（トラブルを恐れず深呼吸）。
- ⑤ 反対意見は、相手の意見を飲み込んでからユックリ話す。
- ⑥ 粘り強く考え、一緒に語りあう（違いを認めあって、共に生きる）。
- ⑦ 秘密は厳守。

(7) 人権教材を活用した学習

- ① グループ討議のときの役割分担を決める。
 - ・司会係、記録係、朗読係、発表役など（参加者に決めてもらう）。
 - ・役割分担を決めずに、参加者に委ねてもよい。
- ② 人権教材の提示（学習促進役）
- ③ グループ討議
 - ・個人で考えるとき
 - ・グループでの討論などの諸活動（四方八方から考えあう）
- ④ グループの意見などのまとめ作業
- ⑤ グループ討議発表（グループを代表してひとり）

(8) 全体ふりかえり（グループ討議の場合もあり）

- ① 参加者全体で、質問・疑問を出しあう。
- ② 参加者とおしの意見交換を促す。

(9) 促進役のコメント

- ① 促進役が進行していて気づいたことなどを素直に表現する。
- ② 無理やり「結論」を述べなくてもよい。
- ③ 心底、感謝の気持ちを参加者に伝える。

(10) 別れの儀式

- ① 参加者相互、主催者との連帯感を醸成するために「お疲れさまでした・・・」と声を掛けあう。
- ② 可能な限り、多くの人と握手をする。
- ③ 参加者同士、次回の参加を約束しあう。

☆☆

留意事項：参加者の質問に困ったとき

- ① 学習促進役の態度
 - ・大きく深呼吸して、落ち着く（あせっていることを認める）。
 - ・学習促進役は、全てのことを知っているスーパーマンではないことを飲み込む。
- ② 促進役の考え方
 - ・参加者に助けをもらうという感覚を大切にす。
 - ・*こちらの方から、こういう意見が出されましたが、どなたか、別の意見を聞かせて欲しいのですが・・・。
 - ・*「このこと」について、知っておられる方、発言をお願いできませんか？
 - ・一緒に学びあっていく姿勢を示す。
 - ・*次回深めたいと思います。私も調べてきますから、みなさんも調べてきて報告してくださいね、などと率直に「お願い」する。
- ③ どこまでいっても「水平感覚」、「違いを認めあって共に生きる」精神をつらぬく。
 - ・助けをもらったら、必ず、口に出して「感謝」を伝える。

はじめに、幸田さんの自己紹介があり、その後、参加者の自己紹介をかねたワークショップに

シート【波瀾万丈伝】

① 誕生から10歳 (印象的な話)	② 11歳から20歳 (印象的な話)
③ 21歳から30歳 (印象的な話)	④ ここ1年以内 (印象的な話)

- ◆自分自身のこれまでを振り返りながらシートに記入していきます。
- ◆普段は意識して思い起こすことのない自分自身のこれまでを、ゆっくりと見つめ直す機会になります。
- ◆その後、グループ内でそのシートを見ながら自己紹介をしていきます。
- ◆確か、それぞれ10分くらいづつの割当て時間だったのですが、いざ話し出してみるとあっという間で、時間が足りないほどでした。

その後、もう1枚ワークシート。

シートA【人権侵害事象の体験搾取】

①差別を受けた体験	②差別をしてしまった体験
③差別に黙って通りすぎた体験	④相談を受け差別克服にかかわった体験 (前進した・前進しなかった体験等)

- ◆次は【人権侵害事象の体験搾取】というシート。
- ◆差別について、自分自身のかかわりについて、過去を振りかえっていきます。
- ◆個人記入ののち、先のワークと同じくグループ内で発表していきます。
- ◆普段なかなか話すことの少ない内容ですが、個人でふりかえり、シートに書くという作業があり、随分と話しやすくなります。
- ◆グループで話をだしあったあと、午後からの教材づくりに備え、“この問題が気になる”“この話でワークショップをつくれないうか”というテーマを、みんなで話し合っただけました。

午後からは、午前中に抽出したテーマを材料に教材づくりに取り組みました。

- ①タイトル
- ②学習の目的・ねらい
- ③人権教材
- ④ワークショップの展開(流れ)

- ◆ 抽出したテーマや、午前中におこなった、ワーク【人権侵害事象の体験搾取】での話を教材として上記①～④をグループ内で話し合い、模造紙にまとめていきました。

*各グループで出された目的・ねらいを紹介

- Aグループ 社会の中にある決めつけ偏見について考えてみる。偏見が流布されたときに乗り越えていくための課題(かかわり方)
- Bグループ 性的役割分担が生きにくい社会をつくっていることを知る
- Cグループ 何気なくつかう言葉のマイナスイメージに気づき、日常生活を見直す。しいては、これらのことを社会に活かす。

- ◆ 各グループ、上記のような目的・ねらいを設定し、人権教材を絞り込み、ワークショップの展開を考えていきました。

MEMO

- ◆ ファシリテーター。自己開示する。思ったことを率直に言う
- ◆ 参加者を信頼する。
- ◆ 人の意見を最後まで聴く。非難しない。
- ◆ 自分の言葉でメッセージを伝える。(私メッセージ) 秘密の厳守。
- ◆ アイスブレイキングは本題に沿うものをおこなう。
- ◆ 教材を作ったらすぐに使わずに、やってみて修正を加え練り上げる。
- ◆ 今日的課題のミニ講義を少し入れる。
- ◆ ファシリテーターも終わったら感謝。

参加者の声

さまざまな人権問題を考えるということは結局は自分の人生を問い直すことだと思います。心に深く残るお話を聴いて、講座に参加してよかったと思いました。

人権教育や人権啓発は「人の生き方を中心にすえる」ことの大切さを改めて学習しました。

興味のある内容が多くたくさん参加したかったのですが、他の行事などと重なりあまり参加できなかったのが残念です。

今後も地道にこのような機会を作ってください。

講座での内容が職場で活かせると思って参加しました。

大変よい内容で、職場での相談事務や事業実施の際の参考になりました。

リラックスして、自分の意見を素直なかんじで引き出してもらえました。

途中からの参加でしたが、とても充実していて感激でした。自分の活動の場も広がっていますし、気持ちの上での変化もありました。ありがとうございました。

人権コーディネーターやファシリテーターは、ほとんど意識していなかったが、人権教育・啓発に携わるものとして、これから大事なことだと思いました。勉強を続けたいと思います。

参加型を実施していく中で、人権コーディネーターとしての準備や心構えについて役立った。

編集後記

奈良県とNPO「ほっとねっと」が協働事業で開催した「2006人権啓発・教育コーディネーター養成講座」は計12日間の日程をもって終了しました。

この間、講師の方々をはじめ参加頂いた方々、またその他多くの方々に支えて頂きましたこと、心より感謝いたします。

講座終了にともない、報告集を作成いたしました。各講座とも充実した内容で、その内容をどこまで報告集に反映できるのかが、ほんとうに難しいところでした。

提供できる情報をなるべく多く掲載しようと試みましたが、講演形式での講座をも含め、ワークショップの持つ場の雰囲気や、講師の方々、参加者の一言ひとことの言葉のニュアンス、また、それぞれが感じとる空気感など、報告集に反映することができないのが実際のところです。

報告集にはキーワードになればとの思いから、さまざまなアクティビティを紹介しておりますが、参加型学習は同じアクティビティをおこなった場合でも、場所の雰囲気や、参加者の“その時の気持ち”などをも含め、さまざまな要素が絡み合い場が展開していきます。

掲載しているレジュメについても、“本講座用に用意して下さったもの”というのが前提ですので、絶対にそのまま使用しないようにしてください。また紹介したアクティビティを実践される場合も、十分に考え、十分に噛み砕いてから、自分自身でスタートするようにお願い致します。

話口調の文章化、また実際には場の雰囲気があります。報告書には映らない空気があります。そのことをご理解していただければと思います。

この報告集がみなさまの学びにつながれば幸いです。

奈良県生活環境部人権施策課

630-8501 奈良市登大路町 30

TEL 0742-27-8719

FAX 0742-27-8721

NPO「ほっとねっと」

630-8133 奈良市大安寺 1-23-1

TEL 0742-64-0015

FAX 0742-64-1640

(報告集の複製・転載不可)

参加者の声

さまざまな人権問題を考えるということは結局は自分の人生を問い直すことだと思います。心に深く残るお話を聴いて、講座に参加してよかったと思いました。

人権教育や人権啓発は「人の生き方を中心にすえる」ことの大切さを改めて学習しました。

興味のある内容が多くたくさん参加したかったのですが、他の行事などと重なりあまり参加できなかったのが残念です。

今後も地道にこのような機会を作ってください。

講座での内容が職場で活かせると思って参加しました。

大変よい内容で、職場での相談事務や事業実施の際の参考になりました。

リラックスして、自分の意見を素直なかんじで引き出してもらえました。

途中からの参加でしたが、とても充実していて感激でした。自分の活動の場も広がっていますし、気持ちの上での変化もありました。ありがとうございました。

人権コーディネーターやファシリテーターは、ほとんど意識していなかったが、人権教育・啓発に携わるものとして、これから大事なことだと思いました。勉強を続けたいと思います。

参加型を実施していく中で、人権コーディネーターとしての準備や心構えについて役立った。

編集後記

奈良県とNPO「ほっとねっと」が協働事業で開催した「2006人権啓発・教育コーディネーター養成講座」は計12日間の日程をもって終了しました。

この間、講師の方々をはじめ参加頂いた方々、またその他多くの方々に支えて頂きましたこと、心より感謝いたします。

講座終了にともない、報告集を作成いたしました。各講座とも充実した内容で、その内容をどこまで報告集に反映できるのかが、ほんとうに難しいところでした。

提供できる情報をなるべく多く掲載しようと試みましたが、講演形式での講座をも含め、ワークショップの持つ場の雰囲気や、講師の方々、参加者の一言ひとこと言葉のニュアンス、また、それぞれが感じとる空気感など、報告集に反映することができないのが実際のところです。

報告集にはキーワードになればとの思いから、さまざまなアクティビティを紹介しておりますが、参加型学習は同じアクティビティをおこなった場合でも、場所の雰囲気や、参加者の“その時の気持ち”などをも含め、さまざまな要素が絡み合い場が展開していきます。

掲載しているレジュメについても、“本講座用に用意して下さったもの”というのが前提ですので、絶対にそのまま使用しないようにしてください。また紹介したアクティビティを実践される場合も、十分に考え、十分に噛み砕いてから、自分自身でスタートするようにお願い致します。

話口調の文章化、また実際には場の雰囲気があります。報告書には映らない空気があります。そのことをご理解していただければと思います。

この報告集がみなさまの学びにつながれば幸いです。

奈良県生活環境部人権施策課

630-8501 奈良市登大路町 30

TEL 0742-27-8719

FAX 0742-27-8721

NPO「ほっとねっと」

630-8133 奈良市大安寺 1-23-1

TEL 0742-64-0015

FAX 0742-64-1640

(報告集の複製・転載不可)